

千葉縣木更津中學校教諭  
 愛媛縣今治中學校教諭  
 富山縣高等女學校教諭  
 大阪府茨木中學校教諭  
 大分縣農林學校教諭  
 東京府私立芝中學校教員  
 本校研究科生  
 栃木縣大田原中學校教諭  
 新潟縣柏崎中學校教諭  
 福岡縣中學傳習館教諭  
 休職神奈川縣橫濱小學校訓導  
 德島縣中學校教諭  
 廣島縣私立明道中學校教員

豐永亦雄 群馬、士  
 小田鶴次郎 岡山、平  
 小沼興 茨城、平  
 河村省一 岐阜、平  
 加藤三郎 福岡、士  
 加藤貞齋 東京、平  
 菅野尋 福島、士  
 吉野正己 千葉、平  
 橫山六郎 長野、平  
 吉岡長三 佐賀、士  
 高橋榮七 神奈川、平  
 竹井喜一郎 京都、平  
 田村春雄 兵庫、士

大分縣中學校教諭  
 奈良縣高等女學校教諭  
 宮崎縣延岡中學校教諭  
 熊本縣私立鎮西中學校教員  
 山口縣德山中學校教諭  
 福井縣小濱中學校教諭  
 山口縣工業學校教諭  
 ○明治三十九年  
 三月卒業  
 愛媛縣師範學校教諭  
 本校研究科生  
 本校研究科生  
 靜岡縣高等女學校教諭  
 福井縣福井中學校教諭

官費數學專修科

竹原達乎 島根、平  
 長井彌太郎 京都、平  
 梅村藹 靜岡、士  
 益本數雄 熊本、平  
 寺岡平藏 熊本、平  
 青戸研吉 島根、士  
 平野秀造 千葉、士  
 市川錠太郎 愛知、平  
 飯河道雄 福島、士  
 蓮池良太郎 山形、平  
 新田香壽 新潟、平  
 堀辰巳 大分、平



德島縣德島中學校教諭  
 千葉縣大多喜中學校教諭  
 茨城縣水戸中學校教諭  
 茨城縣農學校教諭  
 千葉縣成東中學校教諭  
 岩手縣遠野中學校教諭  
 鹿兒島縣師範學校教諭  
 山梨縣第二中學校教諭  
 山形縣米澤中學校教諭  
 愛知縣第一師範學校教諭  
 三重縣師範學校教諭  
 山口縣萩中學校教諭  
 大阪府四條畷中學校教諭

岡田 忠長野士  
 大槻 良三大阪平  
 大竹清五郎新瀨平  
 鷺原 顯亮大阪平  
 和田宣一郎愛媛士  
 川口 文內茨城平  
 河合五三郎愛知平  
 加藤 正順福井平  
 笠野 俊三和歌山平  
 片山 齡助愛媛平  
 仲本 三二兵庫平  
 山本 光三府島士  
 馬淵 壽一大阪平

和歌山縣農林學校教諭  
 新潟縣農林學校教諭  
 山形縣庄内中學校教諭  
 長崎縣高等女學校教諭  
 滋賀縣師範學校教諭  
 山口縣德山中學校教諭  
 大分縣宇佐中學校教諭

●明治三十九年  
 三月卒業撰 科

松本 傳次郎富山平  
 二俣 順造富山平  
 駒野 次郎東京士  
 後藤 靜香大分平  
 寺澤英一郎長野平  
 麻生 重直福岡士  
 佐藤 美造大分平  
 綿貫 惠祐山形士  
 中山 繁藏福島士  
 奧村 幸衛德島士  
 小島 美津次福島平

第六章 卒業生姓名及卒業後狀況



附 録

第一 明治三十九年三月本校卒業證書

授與式祝辭告辭學事報告

牧野文部大臣ノ祝辭大要

卒業生諸君諸君ガ多年勉強ノ結果本日此處ニ卒業證書ヲ受クルニ至  
ツタノハ誠ニ喜ブベキコトデ本大臣ノ祝スル所デア  
就テハ祝辭ノ代リニ此機會ヲ利用シテ諸君ニ希望スル所ヲ一言致サ  
ウト思フ

第一ニ只今校長ノ讀マレタ告辭ハ一言一句余ガ全然同意スル所デア  
ガ將ニ述ベントシタ所デアルドウカ諸君ガ夫々任地ニ就イテ後ニモ  
日夕之レヲ翫味シ服膺スルヤウニト切ニ希望致シマスソレカラ余ガ



更ニ述ベテ置キタイトオモフノハ大ニ國民ノ元氣ヲ振興スベシトイフコトデアリマススベテ元氣ノ衰ヘルトイフコトハ國家ニトツテモ又タ一箇人ニトツテモ頗ル虞ルベキコトデアル現ニ世界各國ノ國勢カラ考ヘテモ今日國運ノ振ハナイ國ハ其起因ヲ釋スレバ種々アラウケレドモ國民ノ意氣銷沈トイフコトガ最大ノ原因トナツテ居ルイヤ獨リ現今ノ國家社會ニ於ケルハカリデナイ歷史上幾ラモ證據ガアル彼ノ英國ノ碩學ラスキンノ如キモ戰爭ハ國運ヲ隆盛ナラシムルコトアリ平和ニヨリテ腐敗セザル國ハ鮮シトコト云フテ居ル自分ガ此間外國ニ居ツタトキニコソナ批評ヲ聞イタ……日本ハ今世界ノ強國ヲ相手ニシテ如何ニモ見事ニ勝利ヲ得ツ、アルガ向後十年二十年經ツテモマタ克ク今日ノ如キ元氣ヲ維持スルデアラウカ……トコトコトコト居ル是等ノ點ハ向後我國民ノ深ク戒心スベキ所デアルト思フ戰後ノ我國ガ務ムベキコトハ種々澤山アル學術モ進歩サセネバナラ

又國ノ富ヲモ殖ヤサネバナラヌ併シ乍ラ學問ハ必ズシモ精神ヲ振興セシムルモノデハナイマタ金錢ガアルカラト言ツテ元氣ガ盛ニナルトモ限ラナイ却ツテ人ヲ懦弱ニシ精力ヲ衰ヘサス事ガアル然ラバ則チ克ク我が興國ノ雄風ヲ維持シテ益々之レヲ發展セシムルニハ何ニヨルカト言ヘバコレハ主トシテ教育……精神教育ニ俟タネバナラスト思フ是等ニツイテモ諸君ハ日頃指導ヲ受ケ心掛ケテ居ラル、コト、思フガコレカライヨノ、實地教育ノ任ニ當ルニ就イテハ充分君方ノ責任ヲ自覺シテ國民ノ精神振興トイフコトニ折角盡力セラレンコトヲ深ク希望シテ置キマス云々

嘉納校長告辭

本校卒業生諸子ニ告ク

諸子カ本日受領シタル卒業證書ハ諸子カ師範學校中學校高等女學校等ノ教育ニ従事スルニ適スル資格ヲ得タルコトヲ證明スルモノナリ



然レトモ是レ唯從事シ得ル事ヲ證明スルノミニシテ其等ノ學校ニ於ケル優良ナル教員タル事ヲ證明スルモノニアラス其等ノ學校ニ於ケル優良ナル教員タル資格ハ今後諸子自ラ之ヲ作ラサルヘカラス此資格ヲ得テ始メテ教育上十分ナル效果ヲ奏スルコトヲ得ヘシ此資格ヲ得ンニハ種々ノ事項ニ注意セサルヘカラス今茲ニ其要ヲ舉ケン

第一自己ノ品性ヲ高メ以テ自ラ子弟ノ模範タルニ足ルヘキ資格ヲ作ルト同時ニ現時ノ社會ノ状態ニ通曉センコトヲ期スヘシ蓋シ諸子ノ教育スヘキ生徒ハ現時ノ社會ニ生レ現時ノ社會ニ成長シ又現時ノ社會ニ於テ其事業ニ従事スル者ナレハ此レカ教育者タル諸子カ現時ノ社會ノ真相ニ通曉セサルヘカラサルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ然レトモ現時ノ社會ハ純潔無垢ニアラス隨テ其事物ハ模範トスルニ足ルヘキモノ、ミニアラス故ニ諸子ハ身ヲ現社會ニ置キテシカモ能ク其

一身ノ高潔ヲ維持センコトヲ務メサルヘカラス蓋シ現社會ヲ離レテ獨リ一身ノ高潔ヲ保ツハ易シ身ヲ現社會中ニ置キ而シテ終始一貫能ク一身ノ高潔ヲ全ウセンコトハ頗ル難シ諸子ハ其易キヲ捨テ、其難キニ就キ忍耐不撓以テ教育者タル人格ヲ完ウスヘシ

又今日ハ學術賤々トシテ進歩スル世ナレハ諸子ハ絶エス其學力ヲ研磨シ以テ時勢ノ進運ニ伴ハンコトヲ務ムヘシ是レ諸子ノ第二ニ心得ヘキ事ナリ但シ學力如何ニ富贍ナレハトテ未タ良教育者ナリト謂フヘカラス必スヤ教育ノ方法又其宜シキヲ得サルヘカラス而シテ教育ノ方法其宜シキヲ得ンニハ先ツ其生徒ノ如何ナルモノナカルヲ了解シ次ニ之ヲ誘掖薰陶スルニ適切ナル方法ヲ案出シ且ツ巧ニ之ヲ實行セサルヘカラス此レ第三ニ心得ヘキ事ナリ第四ニ心得ヘキハ健康ヲ保持スヘキ事ナリ蓋シ教育ノ事業ハ複雑煩瑣ニシテ心身ヲ勞スルコト勘カラス身體健康ナラスンハ奚ソ其勤勞ニ堪ヘ以テ十分ナル效果



ヲ學クルヲ得ンヤ

以上述ヘタル諸點ヲ實行シ以テ十分ナル資格ヲ有スル教育者トナラ  
ンニハ常ニ學生時代ニ於ケル身體ノ狀態ヲ維持シ以テ其體力ヲ衰ヘ  
サラシメン事ヲ務ムルト同時ニ學生時代ニ於ケルカ如キ簡單ナル生  
活ニ満足スル習慣ヲ維持セシムルヲ務ムヘシ己レノ身ヲ持スルコト  
此ノ如クニシテ熱心ニ其職務ニ盡シ幾歲月ヲ積ミテ撓マサランニハ  
茲ニ始メテ其目的ヲ大成スルコトヲ得ヘシ諸子其レ之ヲ努メヨ  
次ニ中學卒業生諸子ニ一言セン  
諸子ノ多クハ進ミテ高等ノ學校ニ入り各異ナル専門ノ學藝ニ從事ス  
ルナラン今ヤ我社會ハ何レノ方面ヲ問ハズ新進有爲ノ人物ヲ待ツコ  
ト甚切ナリ然トモ社會カ諸子ヲ待ツハ單ニ學藝アル人トシテ待ツニ  
ハアラス學藝アル人其學藝ヲ以テ人ニ禍シ社會ヲ害スル例亦少ラス  
然ラハ則チ學藝モ忠誠ナル人ヲ待ツテ始メテ世ヲ利シ人ヲ益スルモ

ノト謂ハサルヘカラス諸子心ヲ此ニ致シ他日學成リ業遂ケタル後忠  
誠ノ心ヲ以テ之ヲ世ニ施シ以テ社會ノ屬望ニ添ハンコトヲ期スヘシ  
之ヲ以テ告辭トナス

學事報告ノ大要 (幹事櫻井寅之助)

例ニヨリ本學年ニ於ケル本校學事ノ概要ヲ報告セン  
第一 本校

(甲)教授上ニ就キテ 方今社會各般ノ事總テ汲々トシテ其進歩改良ヲ  
圖ラントスルニ方リ本邦中等教育界ニ向ツテ克ク其進運ニ寄與ス  
ヘキ優良ノ卒業生ヲ輩出センコトハ本校ガ日夕焦慮スル所ニシテ  
短少ナル修學期間ヲ最モ有效ニ利用センコトハ各教官ガ其教授ノ  
方法ヲ選擇スルニ方リ常ニ講究ヲ怠ラサル所ナリ然ルニ本校ノ如  
キニ在リテハ教具器械及標本等設備ノ如何ニ因テ教授ノ效果ヲ左  
右スルモノ多キヲ以テ年來經費ノ許ス限リ之カ完成ニ力メタリト



雖モ猶甚タ不充分ナルヲ感スルコト尠カラス教授法ノ研究ト教具ノ整頓ト兩者相俟チテ教授ノ效果ヲ大ナラシメンコトハ漸ヲ追ツテ將來ニ大成ヲ期スル所ナリ

(乙)訓練ニ就キテ 教授訓練及實地授業練習ハ師範學校教育ノ三要素ニシテ就中訓練ハ其最モ重要ナル者ナリ故ニ校長ハ自ラ豫科生ノ修身科ヲ擔當スルノ外時々更ル々々各學級ノ生徒等ヲ集メテ懇話會ヲ開キ修學ノ方法ヨリ卒業後處世ノ心得等諸般ノ事項ニ涉リ對話應答ノ間ニ誘掖提撕ヲ力メ猶教官中ヨリ各學級ニ一人ノ學級主任ヲ命シ生徒監及校友會等ト相俟チテ生徒等カ心身ノ修養ヲ鼓舞セシメ將來教育界有用ノ材タルヘキ人物ヲ養成センコトヲ企圖セリ

(丙)寄宿舎 本校寄宿舎ハ此構内ニ在ル第一寄宿舎ト御茶ノ水舊校舎構内ノ第二寄宿舎ト本校附近ニ借り入レタル第三寄宿舎トノ三箇

所ニ分レ本校生徒ノ大部分ヲ收容シ三人ノ生徒監主トシテ之カ指導監督ニ任シ生徒等相互ノ切磋琢磨ヲ獎勵スルノ外時々校長教官及本校舊卒業生ヲ招キテ或ハ談話會ヲ開キ或ハ晚餐會ヲ催ウシ和氣霽々ノ中ニ規律アル生活ノ良習慣ヲ得シメ公德心ヲ養ヒ獻身的精神ヲ鼓吹シ兼ネテ氣宇雄大志操堅固ニシテ向上心ニ富ミ常識ヲ具備セル國士ヲ出サンコトヲ期セリ近頃生徒等カ自ラ進ンデ勞役ニ服シ構内ノ空地ヲ利用シテ學校園ノ經營ヲ企テタルカ如キ其業未タ端緒ヲ開キシニ過キスト雖モ好マシキ傾向トシテ本校ノ喜フ所ナリ唯寄宿舎ニ就キテ最モ遺憾トスル所ハ其所在地ノ各所ニ散在シ然カモ全校生徒ヲ收容スルニ足ラサルカ爲メニ本校教育ノ趣旨ヲ徹底スルニ不便尠カサルコト是ナリ

(丁)校友會 本校校友會ハ職員生徒カ學業ノ餘暇ヲ以テ心身ヲ鍛練シ親睦ヲ圖ランカ爲メニ組織セルモノナリ談話部雜誌部柔道部擊劍



部、弓技部、徒步部、庭球部、蹴球部、野球部、短艇部、游泳部ノ十一部ヨリ成リ會員ノ好ム所ニ應シ各種ノ修練ヲ勵ムモノニテ其活動ハ主トシテ生徒等ノ選出セル役員ニヨリテ經營セラレ彼等ヲシテ受働的ニ授業ヲ受ケシムル傍ラ發動的ニ活躍スヘキ機會ヲ與ヘ事務ノ才幹ヲ練リ他日實務ヲ處辨スル上ニ資益少カラサルヲ信ス今年度ニ於ケル校友會ノ概況ヲ述フレハ柔道部ニ於テハ前年度末ノ有段者二名ニ過キサリシモノ本年度ニ至リ遽カニ増加シテ七名ヲ有スルニ至レルハ本校未曾有ノコトニシテ擊劍部カ其道ニ於テ都下學生界ノ雄鎮タル早稻田大學ト對抗試合ヲナシ優勝旗ヲ贏チ得タル庭球部カ此技ニ關スル積弊ノ改革ヲ圖リツ、諸學校トノ對抗競技ニ於テ最優勝ノ位置ヲ維持シタル蹴球部カ漸ク其技ヲ練リ來ツテ雄壯ナル競技ヲ示サントスルニ至レル、游泳部カ昨年夏期險惡ナル氣候ナリシニ抱ハラス二十名ノ五十町以上ノ遠泳成功者ヲ出セルカ

如キハ皆コレ主トシテ其指導ニ任セル各教官ノ熱誠ト部員等カ嚴冬酷暑ニ屈セス克ク繁劇ナル學業ノ餘暇ヲ利用シ勇奮健闘各其部ノ爲メニ力メタルトニ依ラスンハアラス若シ夫レ校友會全會員ノ協同一致ニ舉行セル春期大會、秋期運動會等ニ至リテハ之ヲ經營セル者ノ劃策ト之カ節制ニ服從セル者ノ規律ト兩々能ク相調和シ其成果亦遺憾ナキニ近カリキ其他談話部、雜誌部、弓技部、野球部、端艇部ノ如キモ年ヲ逐ツテ發展スルコト又他ニ讓ラサルモノアリ之ヲ要スルニ校友會ハ本校職員及生徒カ各自其費用ヲ負擔シテ經營セル一私會ニ過キスト雖モ本校教育ノ趣旨ヲ貫徹スルニ有效ナル一機關ニシテ將來益良好ノ發達ヲ見ルニ至ランコトハ職員生徒ノ共ニ希圖シテ止マサル所ナリ而シテ本年度ニ於テ寄宿舎生活ノ改善校友會ノ經營等ニ關シ職員ノ指導ヲ服膺シ大ニ力ヲ致シタルハ主トシテ今回卒業セントスル生徒ニシテ寔ニ能ク上級生徒タル



面目ヲ發揮セルモノト云フハシスノ如キハ本校ノ多トシテ嘉獎ス  
ル所ナリ

(戊)新卒業生

科別	卒業生	同 (博物部)
研究科(二年程度)	二八	二四
同 (一年程度)	一七	二一
本科(國漢部)	一八	二三
同 (英語部)	二六	二五
同 (地歴部)	二五	四
同 (數物化部)	二一	二〇六
		計

右ノ中本科ハ豫科一年本科三年合計四年ノ學習ヲ了ヘ修身教育專  
修科及英語專修科ハ二年二學期數學專修科ハ二年一學期ノ學習ニ  
ヨリ卒業スルニ至リタルモノナリ

此等卒業生ヲ本校創立以來ノ卒業生ニ加フレハ實ニ二千二百九十  
名ニ達ス

(己)現在生徒 本校現在生徒ハ今回卒業スヘキモノヲ合セ研究科五組  
本科十七組專修科三組豫科三組合計二十八組ニシテ撰科生ヲ合シ  
此人員五百四十六名外ニ外國人聽講生十五名ナリ又來學年ニ於テ  
入學豫定ノ者ハ研究科約三十名豫科約百二十五名ナリ其他猶昨年  
十二月制定セル文科兼修體操專修科及圖畫手工專修科規則ニ基キ  
過般來人學志願者ヲ募集シ來四月四日ヨリ試驗執行ノ上同十六日  
ヨリ入學ヲ許可スヘキ豫定ノ者約五十名ナリ

(庚)講習會 終リニ臨ミテ本學年ニ於ケル例年ト異ナル事業ヲ報告セ  
ン即チ二種ノ講習會ヲ開催セルコトニテ其一ハ夏期講習會也此講  
習會ハ本校卒業生ニ新智識ヲ與ヘ兼ネテ本校ト卒業生トノ連絡ヲ  
一層親密ナラシメンカ爲ニ夏期ノ休暇ヲ利用シテ開ケルモノナリ



其講習科目トシテ植物學ヲ選ミシハ此學科擔當教授ニシテ外國ニ留學セル者ノ近年歸朝セルト植物學ノ研究及學習ノ方法ニ於テ輒近殊ニ著シキ變化アリシヲ認メタルトニヨレリ其講習期日ハ三週間ニテ講師ハ本校教授二名講習員ハ各地方ニ在職セル本校博物科卒業生三十一名ナリキ本校カスノ種ノ講習會ヲ開ケルハ本年ノ創始ニ係リ其結果ハ之ヲ何レノ方面ヨリ觀察スルモ頗ル良好ナルヲ認メタリサレハ今後ニ於テモ亦斯ノ如キ講習會ヲ開カンコトハ本校ノ切ニ希圖スル所ナリ唯經費ノ事情等ノ爲ニ其實施ヲ阻メラルハコトアラシクモ慮ルノミ

更ニ別種ノ講習會ハ文部省ノ開催ニ係ル視學講習會ニシテ本校其授業ノ全部ヲ擔當シ會ヲ開クコト三回毎回始ト一學期ニ涉リ講習修了者第一回第二回ニ於テ郡視學百四名第三回ニ於テ縣視學四十一名ナリ是等講習員ハ何レモ地方ニ於ケル初等教育ニ從事スルモ

モノ、選良ニシテ其云爲行動ハ直接ニ我國普通教育ノ成績ニ多大ノ影響ヲ及ホスヘキ位置ニアル者ナルカ故ニ之カ教導ニ關シテハ慎重細心高遠ニ走ラス卑近ニ流レヌ彼等ヲシテ監督指導共ニ其途ヲ誤ラサラシメントスルニ於テ苟モ遺憾ナカラシムコトヲ務メタリ其效果ノ如何ハ未タ遠ニ言フヘカラスト雖モ蓋シ其期スル所ニ違ハサルヘキヲ信ス庶幾クハ更ニ一步ヲ進メ本校教官ヲシテ時々地方ヲ巡察セシメ視學機關ト相俟チテ普通教育改良進歩ノ上ニ益適切有效ナル劃策ヲ講スルニ至ランコトヲ

第二 附屬學校

更ニ附屬學校ニ就キ一言セン

附屬學校ハ普通教育ノ方法ヲ研究シ兼ネテ本校生徒ヲシテ教育ノ方法ヲ實地ニ練習セシメンカ爲メニ設置セラル、モノニシテ本校ニ於ケル教授訓練ト相俟チテ生徒ノ教育ヲ完成スルニ於テ頗ル重



要ノ機關タリ然ルニ其校舍ハ中學ハ御茶ノ水ニ小學ハ一ツ橋ニ而シテ小學第三部ハ本校講内ニト云フカ如ク各所ニ散在シ寄宿舎ト同シク其距離各相遠ク相互密接ノ連絡ヲ圖ルノ切要ナルカ故ニ平素不便ヲ感スルコト愈甚シキモノアリ殊ニ中學及ヒ小學ノ校舍ハ素ト其目的ノ爲メニ建設セラレタルモノニ非サルヲ以テ其外觀ハ稍可ナルカ如キモ實際局ニ當ル者ノ苦心ハ徒ラニ不適當ナル設備ヨリ生スル障害ヲ避ケンカ爲ニ費消セラル、ノ觀ナキニアラス附屬小學校第三部校舍ハ昨年度末新築落成ヲ告ケ本年度ヨリ之ヲ用フルニ至レルモノニテ普通ノ單級小學校トシテハ或ハ適當ナランモ同校ノ如ク日々多數ノ來觀者ヲ有シ且ツ敎生練習ノ用ニ供セラ、ル、モノトシテハ猶改善ヲ要スルモノ尠カラス

之ヲ要スルニ設備其他ノ不完全ナルコトハ殆ト忍フ可ラサルハ以上述フルカ如クニシテ頗ル遺憾トスル所ナリト雖モ幸ヒニ各部職

員カ忠實ニ熱心ニ各其職分ヲ守リ本校存在ノ意義ヲ實現スルニ於テ殆ト餘力ヲ剩サ、ルハ大ニ本校ノ満足スル所ナリ

附屬中學校生徒ノ定員ハ三百六十名學級十學級ニテ今日此處ニ卒業證書ヲ授與スヘキモノ六十名其内二十四名ハ附屬小學校ノ初年級ヨリ引續キ在學セルモノナリ

今之ヲ明治三十六年第一回以來ノ卒業生ニ累計スレハ總員四百八十九名ニシテ新卒業生ノ多數ハ更ニ高等ノ教育ヲ受ケントスル者ナリ

附屬小學校生徒ノ現在ハ第一部二百四十五名第二部二百十六名第三部百二十三名ニテ今回各部ニ於テ其課程ノ全部ヲ卒業セルモノハ通計百五十五名ナリ同校カ本年度ニ於テ敎生及視學講習員ノ實地授業指導ノ外或ハ文部省ノ諮詢ニ應シ或ハ同校ノ規定ニ基キ其職員ヲシテ研究調査ヲ遂ケシメ文部省ニ答申シタル報告ハ六篇ニシ



テ教育雜誌等ニ公表セシモノ二十篇ナリ  
本年度ニ於ケル同校來觀者ハ時局ノ影響アリシニ拘ラス益増加シ  
テ三千五百餘名ノ多キニ達セリ斯ノ如ク同校カ全國小學校教育ニ  
影響スル所ノ愈多大ナラントスルニ方リ職員ノ定員不足ナルカ爲  
ニ來觀者ニ對シ充分ノ便益ト指導トヲ與フルヲ得サルハ頗ル遺憾  
トスル所ナリ

附屬教育博物館ニ就キテ此際特ニ報告スヘキハ本年度ノ終リニ當  
リテ從來缺員ニ屬セシ主任者ヲ得タルコト是ナリ同館ノ改善ニ付  
キ諸般ノ報道ヲナサンハ之ヲ明年ニ期セントス

### 第二 入學志望者心得

#### 入學試験ニ關スルコト

當校生徒ハ通例一定ノ資格ヲ有スル者ニ就キテ試験ヲ施シ選抜スル

者ナレトモ各自從前ノ修業區々其途ヲ異ニスルヨリシテ本校ノ期望  
ニ合セサル者多シ仍テ茲ニ豫メ入學試験ノ科目及ヒ程度ヲ定メ以テ  
入學志願者ノ指針トナス

一豫科入學試験ノ科目ハ試問、國語、漢文、英語、數學、地理、歴史、理科トス  
試問ハ教育ニ關スル二三ノ問題ヲ出シテ之ニ答ヘシメ平素思想ノ  
傾向及ヒ精粗ヲ試ムルモノトス

國語ハ文法、解釋及ヒ作文ヲ含ミ就中文法ハ其全體ニ通シ特ニ普通  
文ニ於ケル應用ヲ能クスルヲ要シ解釋ハ普通文ニ就キテ簡明ニ其  
意義ヲ說述シ得ルコトヲ要シ又作文ハ迅速、精確ニ普通文ヲ作り得  
文字、熟語、語法等ニ誤謬ナキヲ要ス

漢文ハ論語、孟子、史記、通鑑、學要ノ中ニ就キテ字義訓詁ヲ明ニシ其ノ  
意義ヲ簡明ニ解釋スルコトヲ要ス

英語ハ簡易ナル英文ニユリ、ナシヨナル第五讀本、サイエンス、ブリマ



1. ベインター氏教育史ノ程度ヲ甚シキ誤謬ナクシテ音讀シ之ヲ明瞭ニ解釋シ及ヒ其文章中緊要ナル文法上ノ説明ヲナシ得ルコトヲ要シ又平易ナル短篇ヲ甚シク誤謬ナクシテ綴リ得ルコトヲ要ス  
 歴史ハ本邦史、東洋史、西洋史ヲ含ミ、就中本邦史ハ最モ詳密ナルヲ要ス而シテ時、所ノ觀念ハ精確ナルヘク隨ヒテ各時代ノ範圍及ヒ特異ノ諸點ヲ記憶センコトヲ要シ又政治、文學、宗教、技藝ヲ論セス凡テ顯著ナル人物ノ事蹟ヲ詳ニセンコトヲ要ス  
 地理科ハ本邦地誌、外國地誌及ヒ地文ヲ含ミ、就中本邦地誌ハ最モ詳密ナルヲ要シ又外國地誌ハ本邦ト親密ナル關係アルモノニ重キヲ置クヘシ且ツ製圖法ノ大概ヲ心得ンコトヲ要ス  
 數學ハ算術、代數、幾何ヲ含ミ、就中算術、代數ニ於テハ算法ノ理由ヲ了解スルト共ニ計算ニ熟達シ且ツ日常問題ノ解法ニ於ケル其ノ適用ヲ能クスルコトヲ要シ又幾何ニ於テハ平面及ヒ立體幾何中ノ重要

ナル定理ヲ暗記シ其ノ應用ヲ能クシ且ツ簡易ナル面積及ヒ體積ヲ算定シ得ルコトヲ要ス  
 理科ハ物理、化學及ヒ動物、植物ヲ含ミ、就中物理、化學ニ於テハ正確ニ其ノ學理ヲ會得シ且ツ近易ナル應用問題ノ解答ヲ能クシ殊ニ化學ニ於テハ無機物ハ勿論普通ニシテ簡易ナル有機物ニ關スル智識ヲ備ヘンコトヲ要ス又動物、植物ニ於テハ一般ノ事實ヲ正確ニ會得スルハ勿論且ツ普通ノ種類ニツキテ實地解剖上ノ智識ヲ備ヘンコトヲ要ス  
 前記諸科目ニ於テ特ニ其程度ヲ明示セサルモノハ凡テ師範學校ノ程度ニ準ス  
**入學及學資ニ關スルコト**  
 一 豫科生ハ給費、自費ノ別ナク總テ寄宿舎ニ入ラシム豫科ヲ卒業スルトキハ直チニ本科ニ入學セシム



一 自費生徒ハ本校所定ノ制服食費寄宿舍費學用品費其他諸雜費トシテ年額凡貳百圓ヲ要スヘク尤モ學部ノ種類及年級ノ如何ニ依リ多少ノ差違アルヘシ

一 給費生徒ノ費額ハ前項ノ金額ヨリ各自支給ヲ受クル額丈ケヲ減スルモノトス

一 研究生ハ給費生ニアリテハ本校本科（西中學師範學科初等）又ハ專修科卒業生中ヨリ學校長之ヲ選拔シ文部大臣ノ認可ヲ經テ入學セシム自費生ニアリテハ内外國ニ於ケル官公私立ノ高等ナル學校ノ卒業生等ニツキ學校長ノ特ニ適當ト認ムル者ニ限り入學セシム

一 撰科生ハ總テ自費ニシテ入學試験ヲ行ヒ入學セシム

### 第三 東京高等師範學校々友會規則

#### 第一章 目的

第一條 東京高等師範學校々友會ノ目的ハ會員ノ精神ヲ修養シ身體ヲ鍛鍊シ以テ校風ヲ振作シ併セテ相互ノ親睦ヲ厚ウスルニアリ

#### 第二章 會員

第二條 本會々員ハ左ノ四種ヨリナル

- 名譽會員
- 贊助會員
- 特別會員
- 通常會員

第三條 特ニ本會ニ功勞アル人ハ之ヲ名譽會員トナス

第四條 本校現在職員ヲ以テ贊助會員トナス

第五條 本校前職員及本校卒業生ヲ以テ特別會員トナス

第六條 本校生徒ヲ以テ通常會員トナス

第七條 通常會員ハ評議員會ニ於テ定ムル所ノ會費ヲ納ムルモノト



ス

第八條 通常會員ハ別ニ定ムル所ノ規定ニヨリ校友會基本金ヲ積立ツルモノトス

第九條 通常會員ハ入會ノ際入會金壹圓ヲ納ムルモノトス

第十條 贊助會員ハ毎年贊助會員ノ會議ニテ定ムル所ノ割合ニヨリ本會通常經費ヲ寄附スルモノトス

第三章 會務分掌

第十一條 本會ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ十一部ヲ置ク

- 談話部
- 雜誌部
- 柔道部
- 擊劍部
- 弓技部

徒歩部

庭球部

蹴球部

野球部

短艇部

游泳部

第十二條 談話部ハ會員ノ演說討論談話會ヲ開キ及ビ校外ノ名士ヲ招聘シテ演說講話ヲ乞フコトヲ掌ル

第十三條 雜誌部ハ本會々誌ヲ發行シテ會務ヲ報告シ會員ノ論說文藝消息等ヲ公ニスルコトヲ掌ル

第十四條 柔道以下ノ九部ハ各其名稱ニ應ズル修練ヲ爲スモノトス

第四章 役員

第十五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

附 錄



會長	一名
副會長	一名
幹事長	一名
部長	十一名
但シ一名ニテ二部以上ヲ兼ヌルコトヲ得	
會計審査員	四名
評議員	若干名
幹事	四名
理事	各部二名
委員	各部若干名

但シ時宜ニヨリ臨時役員ヲ設クルコトアルベシ

第五章 役員ノ選任

第十六條 會長ニハ本校々長ヲ推薦ス

第十七條 副會長幹事及ビ部長ハ贊助會員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

第十八條 會計審査員ハ評議員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

第十九條 評議員ハ其十名ヲ贊助會員中ヨリ會長之ヲ依囑シ其他ハ各學級ヨリ一名ヅ、選出ス評議員ハ幹事理事若ンクハ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

贊助會員ノ評議員ハ部長ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十條 幹事ハ通常會員ノ中ヨリ選出スルモノトス

第二十一條 各部理事ハ當該部委員中ヨリ互選スルモノトス

第二十二條 各部委員ハ各年級ヨリ一名宛選出スルモノトス

但シ庭球部短艇部及ヒ游泳部ニ於テハ本科各年級ヨリ二名專修科各學級ヨリ一トス

第二十三條 臨時役員ハ贊助會員及ビ特別會員中ヨリ會長之ヲ依囑シ若クハ通常會員中ヨリ幹事長之ヲ依囑ス



第六章 役員権限

- 第二十四條 會長ハ本會々務ヲ總理ス
- 第二十五條 副會長ハ會長ヲ補佐シ臨時必要ノ場合ニハ會長ニ代ツテ會務ヲ總理ス
- 第二十六條 幹事長ハ庶務及ヒ會計ノ事務ヲ統理ス
- 第二十七條 部長ハ當該部ノ事務ヲ統理ス
- 第二十八條 會計審査員ハ會計事務ヲ審査スルモノトス
- 第二十九條 會長副會長及ビ評議員ハ評議員會ヲ組織シ第三十四條ニ定ムル事項ヲ議ス
- 第三十條 幹事ハ庶務會計ノ事務ヲ處理ス
- 第三十一條 理事及ビ委員ハ當該部ノ事務ヲ處理ス
- 第三十二條 幹事長部長幹事及ビ理事ハ理事會ヲ組織シ第三十七條ニ定ムル事項ヲ議ス

第七章 役員ノ任期

- 第三十三條 副會長幹事長部長會計審査員評議員幹事理事及ビ委員ノ任期ヲ一箇年トシ毎年十二月中ニ改選又ハ依囑ス
- 但シ翌年度豫算ノ決定卒業生送別會及ビ第四十四條ニ關スル事項ヲ除クノ外ハ翌年第三月ニ至ル迄舊役員各所定ノ任務ニ従事スルモノトス
- 役員ノ改選期ハ評議員會ノ決議ニヨリ會長ノ許可ヲ經テ壹箇月以内變更スルコトヲ得

第八章 評議員會議

- 第三十四條 評議員會ノ決議スベキ事項左ノ如シ
  - 一 豫算ノ決定
  - 一 本會豫算外支出ニ關スル件
  - 一 本會規則ノ改正



一 其他特ニ重要ナル事項

但シ本條第一項豫算ノ決定ハ前以テ評議員ノ互選セル委員ノ審査ヲ經ルヲ要ス

第三十五條 評議員會ハ會長ヲ以テ議長トス

第三十六條 評議員會ノ議決ハ會長ノ許可ヲ經テ之ヲ執行スルモノトス

### 第九章 理事會議

第三十七條 理事會ノ議スベキ事項左ノ如シ

一 豫算ノ編成

一 校友會大會陸上大運動會水上大運動會及ビ卒業生送別會ニ

關スル事項

一 第四十四條ニ關スル事項

一 本會々務ニシテ各部ニ通ジテ關係スル事項

第三十八條 理事會ハ部長ノ一名ヲ以テ議長トス

### 第十章 會計

第三十九條 本會ハ會費寄附金及ビ基本金ノ利子ヲ以テ歲入トシ一切ノ支出ヲ以テ歲出トス

第四十條 普通歲出入ハ豫算會議ニ於テ之ヲ定ム

第四十一條 本會基本金ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條 豫算外臨時支出ヲ要スルトキハ評議員會ノ決議ヲ要ス

### 第十一章 雜則

第四十三條 本會各部ノ細則ハ各部ニ於テ之ヲ定メ理事會ノ承認ヲ經ベシ

第四十四條 本會ニ功勞アルモノ及ビ本會各部ニ於テ技能特ニ拔群ノモノニ對シテハ相當ノ方法ニヨリ之ヲ表彰スルコトアルベシ

第四十五條 本會ノ贊助會員ニシテ本校ヲ去ルモノニハ紀念品ヲ贈



呈スルコトアルベシ  
第四十六條 本會々員ニシテ死去シタルトキニハ吊詞或ハ吊慰金ヲ贈ルモノトス

第四十七條 本會ノ目的ヲ賛成シ寄附ヲ申込ム者アルトキハ會長ノ許可ヲ受ケ之ヲ受理スルコトアルベシ

第四十八條 本會規則ヲ改正シ又ハ修正セントスルトキハ本會役員十名以上又ハ會員三十名以上ノ同意ニヨリ評議員會ニ提出スルコトヲ得

役員選舉内規

第一條 本會規則第二十條ニ於ケル幹事選舉ハ次ノ規定ニヨル  
本科三年二人、本科二年一人、專修科三年一人トスルコト  
第二條 本會規則第二十一條ニ於ケル各部理事ノ選舉ハ次ノ規定ニ

ヨル

本科若クハ專修科三年ヨリ一人、本科若クハ專修科二年ヨリ一人ヲ當該部委員中ヨリ互選スルコト  
但シ若シ專修科三年ヲ缺ク時ハ本科二年ヨリ二人トス

校友會基本金規定

第一條 本會ハ其基礎ヲ鞏固ニシ事業ノ發達ヲ圖ランガ爲ニ基本金ヲ蓄積ス  
第二條 基本金ハ本會通常會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス  
第三條 基本金原資ハ何等ノ事情アルモ之ヲ費消スルコトヲ得ズ  
第四條 基本金ヨリ生ズル利子ハ本會通常會計ニ編入ス  
第五條 基本金ハ有價證券又ハ現金ヲ以テ保管シ其利殖ノ方法ハ會長ニ於テ評議員會ニ諮詢シ之ヲ定ム



第六條 基本金ハ通常會員ノ釀金贊助會員並ニ特別會員ノ寄附金及  
ビ本會々計剩餘金ヲ積立ツルモノトス

第七條 通常會員ハ基本金トシテ毎年九月中旬金壹圓ヲ釀出スルモ  
ノトス

第八條 會員以外ノ者ヨリ基本金ノ中へ寄附ヲ申込ムトキハ會長ノ  
承認ヲ經テ之ヲ受納スルコトアルベシ

第九條 基本金ニ關スル事務ハ本會々計之ニ任ス

第十條 基本金ニ關スル公告ハ校友會々誌ヲ以テス

第十一條 本規定ハ評議員會ニ於テ出席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得  
更ニ贊助會員及通常會員ノ總會ヲ開キ其出席者三分ノ二以上ノ同  
意ヲ得テ會長ノ許可ヲ經ルニアラザレバ之ヲ變更スル事ヲ得ズ  
前項評議員會及ビ總會ハ少クモ一週間以前ニ開會ヲ豫告スルヲ要  
ス

第十二條 本規定ハ明治三十六年度ヨリ實施ス

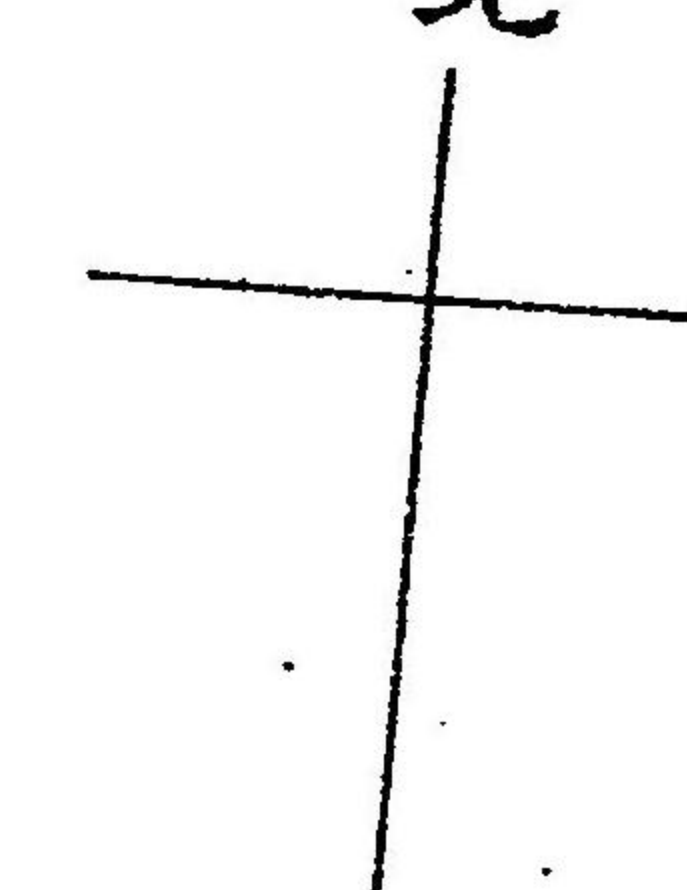
16/9/40



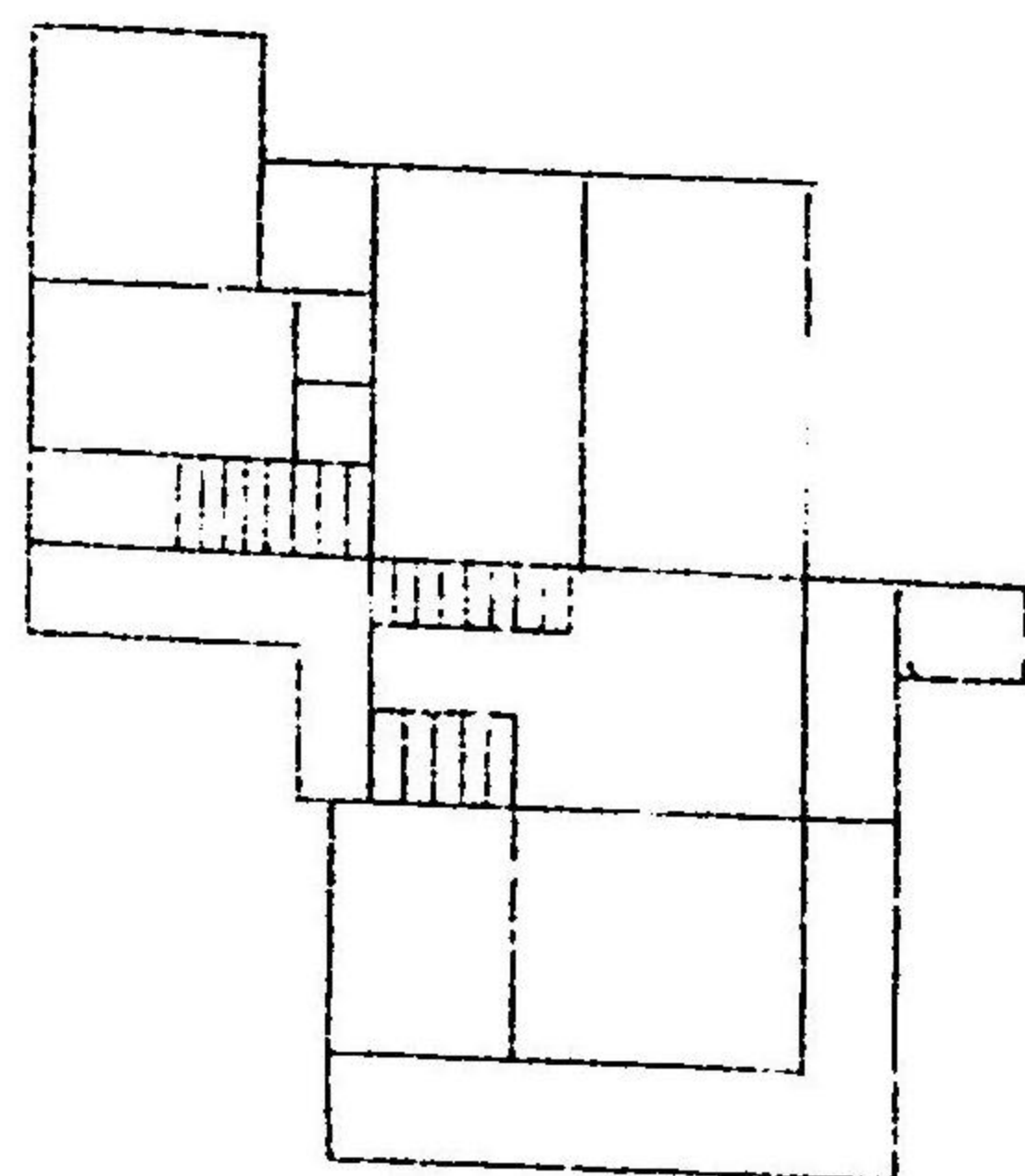
# (一其) 物 建 地 敷 校 學 範 師 等 高 京 東

勻 三 合 五 坪 拾 二 百 九 十 四 坪 地 總  
 勻 八 合 五 坪 三 十 四 百 八 坪 建  
 勻 八 合 四 坪 八 拾 六 坪 階 二 二 外  
 在 所 地 番 二 町 通 橋 一 區 田 神

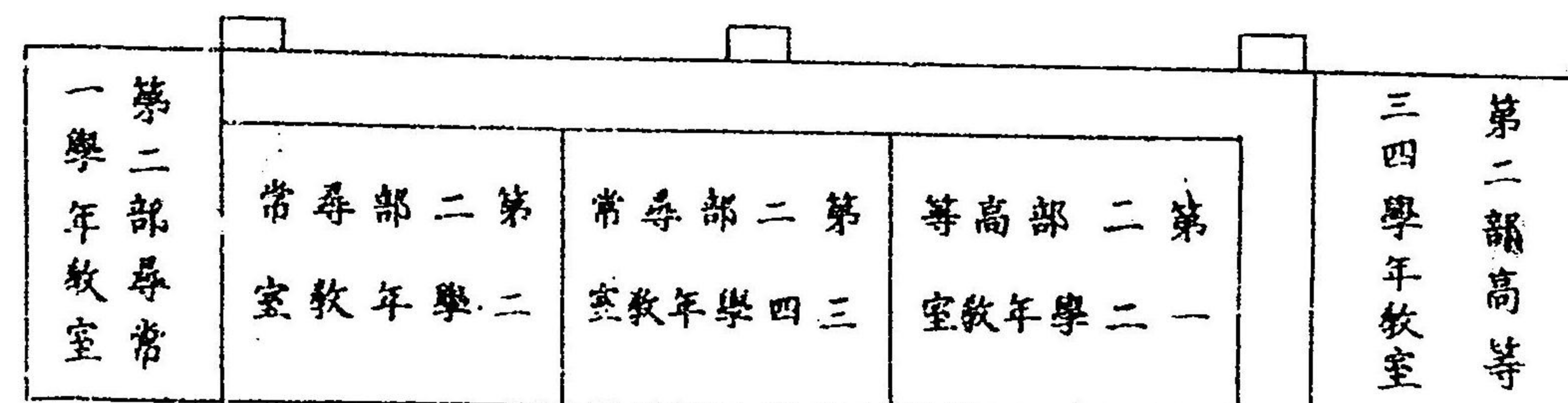
北



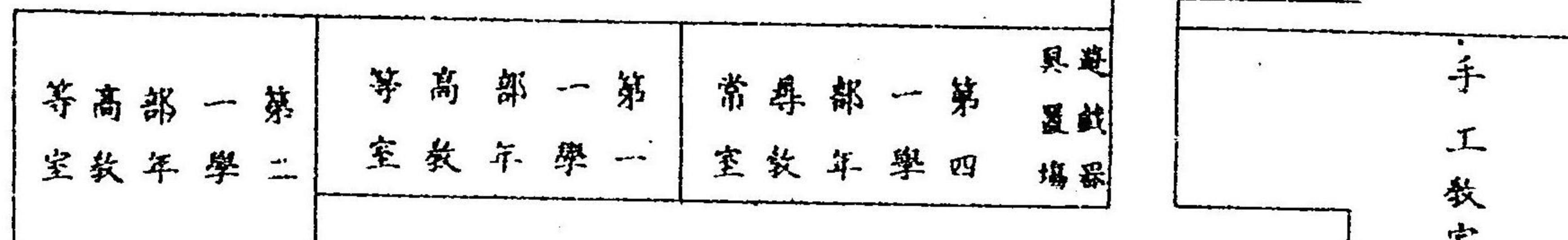
館 師 教



附



属



裏門



要門

學年教室  
第一高等

兒童入口  
第二部

手工教室

便所

職員室

小使室

教生室

會議室

一部兒童入口

所接應  
控參觀  
所人

玄関

附屬  
高等部二第 常尋部二第 常尋部二第 高等部二第  
室教年學二一 室教年學四三 室教年學二一

高等部一第 高等部一第 常尋部一第 器具置  
室教年學二 室教年學一 室教年學四 置戲器

裁縫室  
圖書室

木機械  
室標

小

講堂兼唱歌室  
操器械置場

學

校

第一尋常部 第一尋常部  
室教年學二 室教年學一  
三學年教室

兒童入口

衛門

置物

第一  
第二部

屋內  
操場

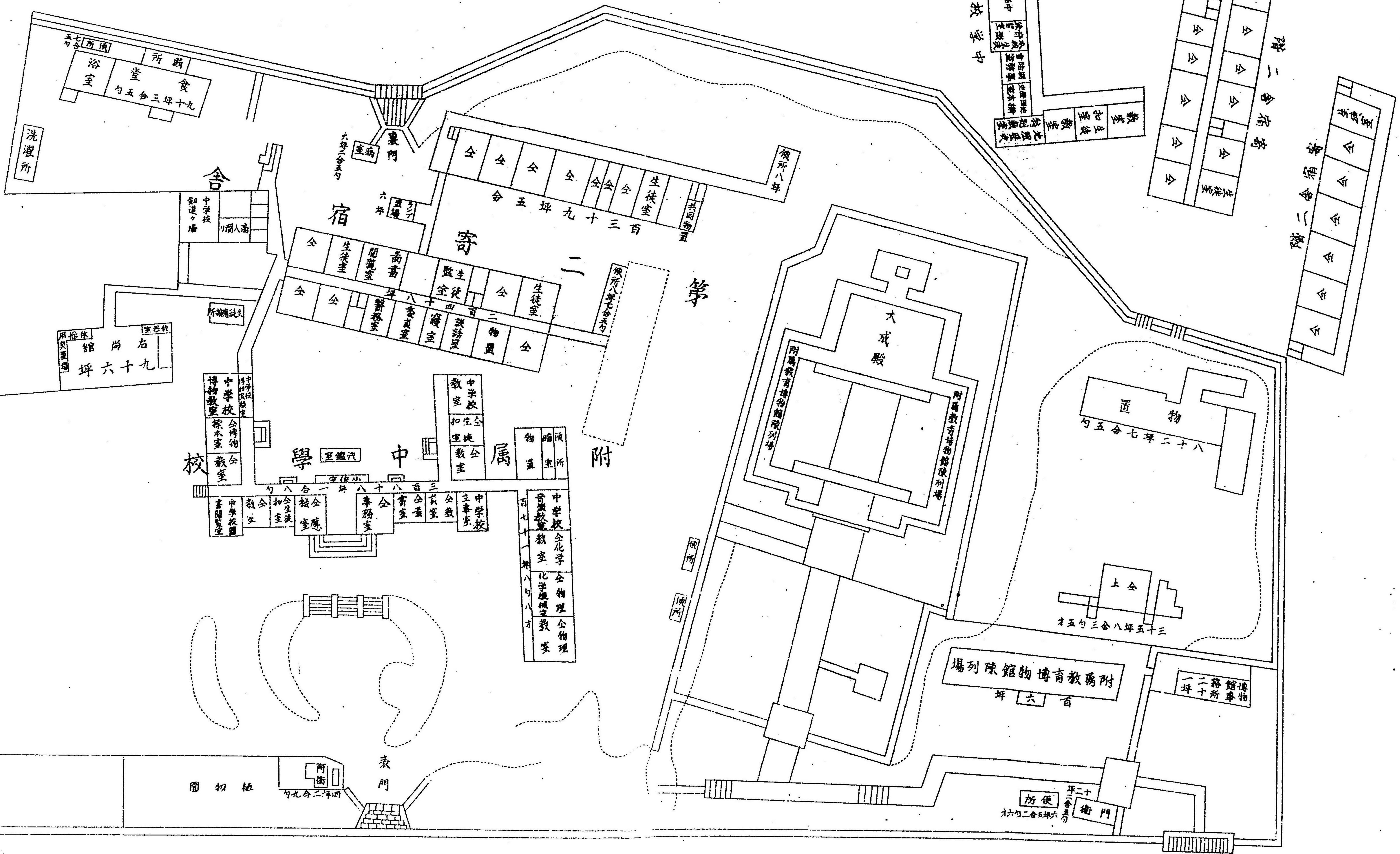
所便

門校



# 東京高等師範學校敷地建物(其二)

總地坪七千三百九拾四坪合一勺二才  
 本郡區湯島三丁目二十二番所在地





# 東京高等師範學校略圖 (小石川區塚窪町)

總地二坪五萬五千六百八十八坪  
 建坪三千八百九十九坪  
 二階坪二十九百二十坪

植  
物  
園

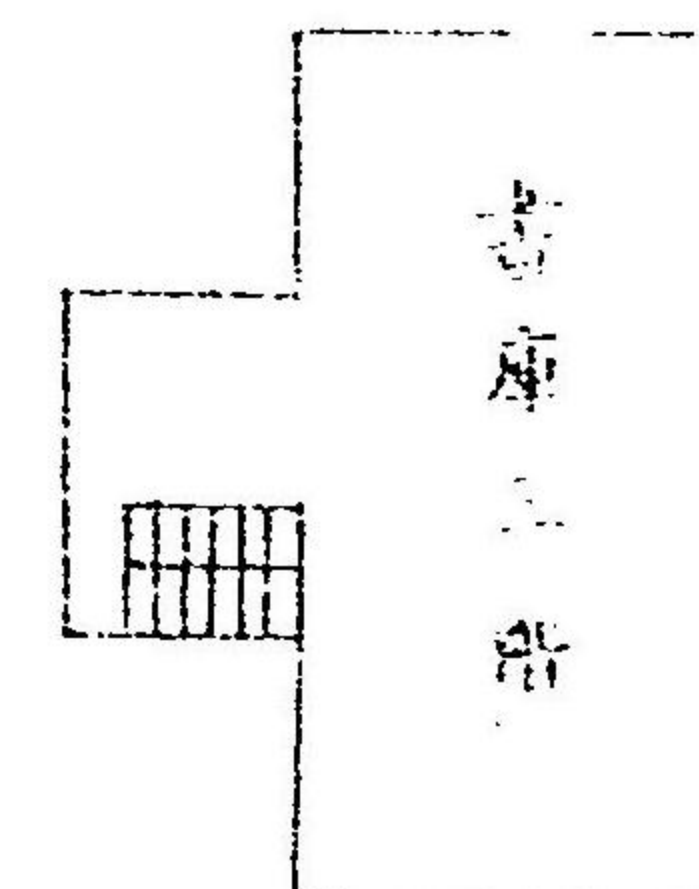
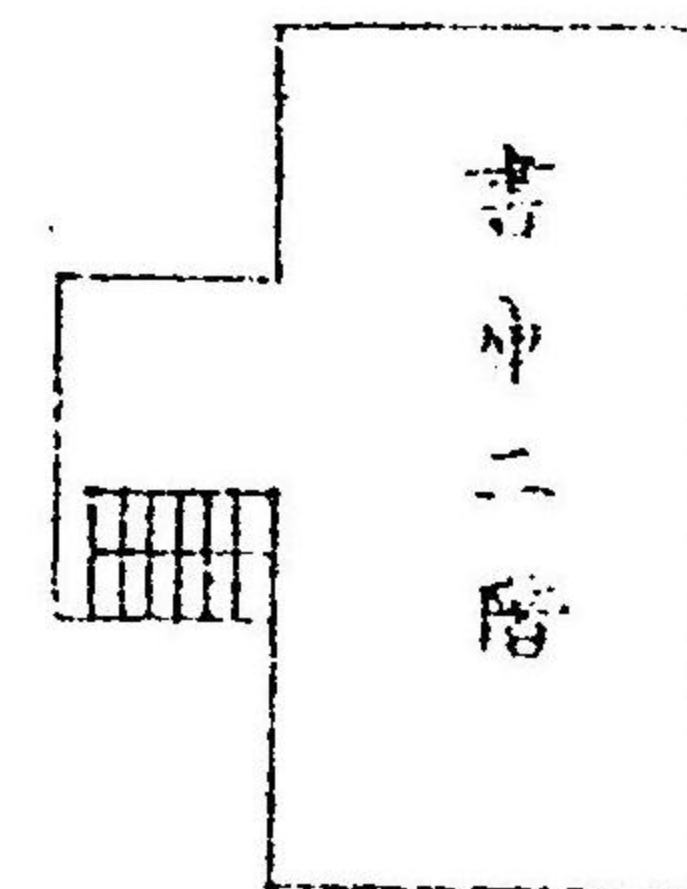
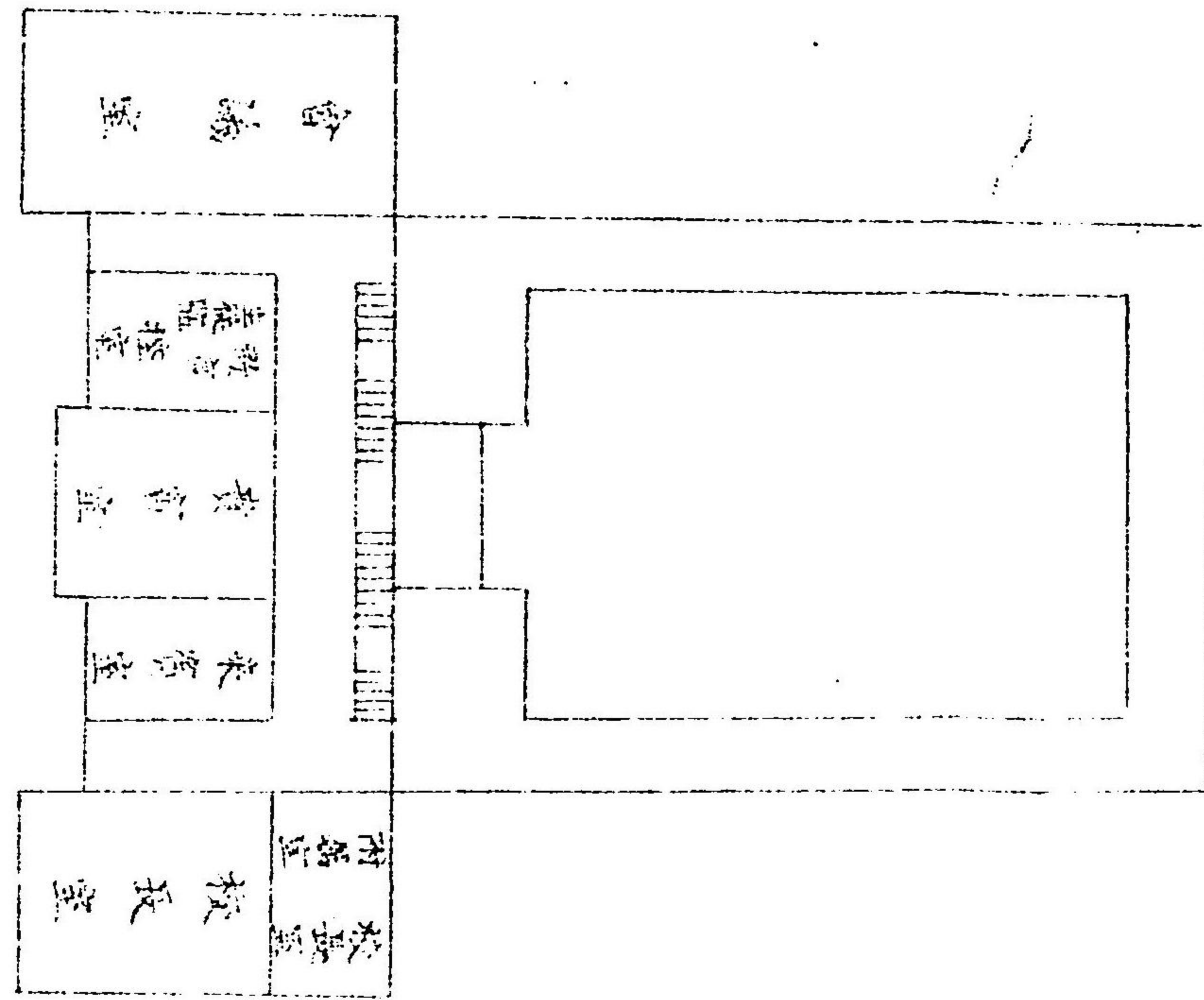
溫室

便所

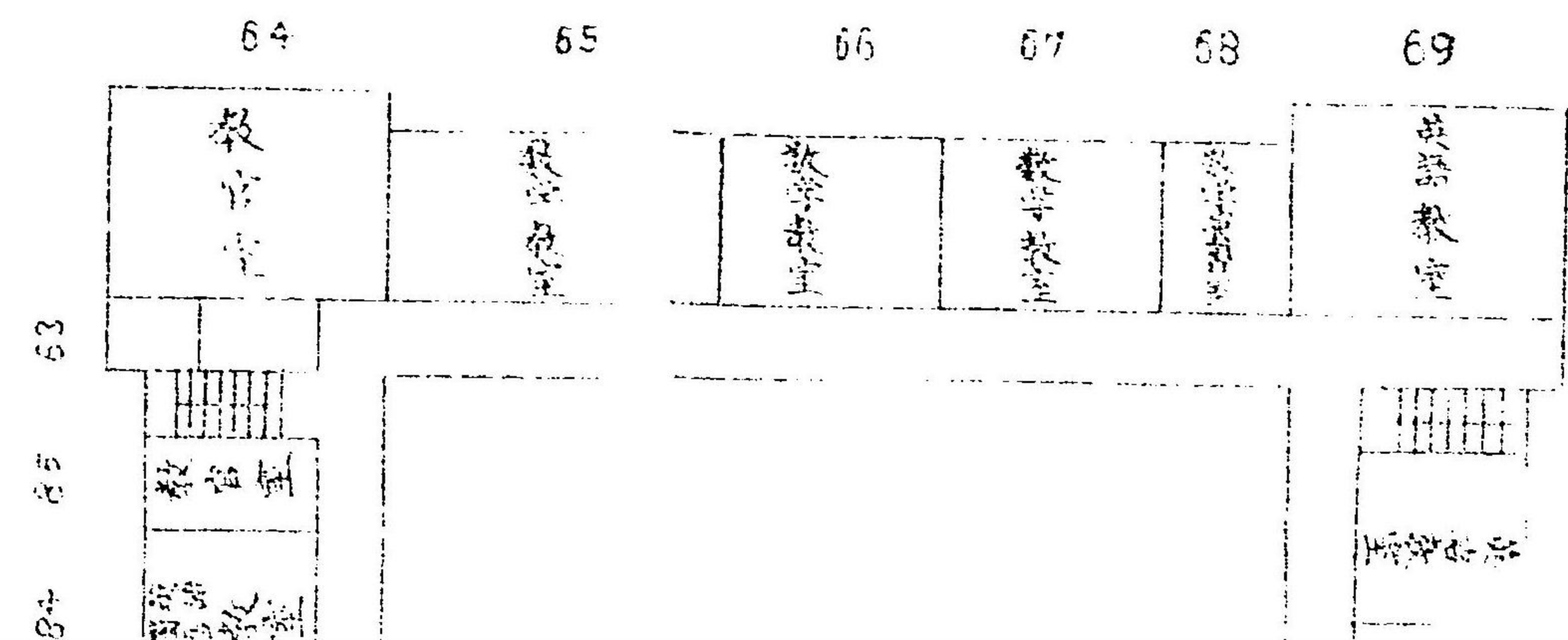
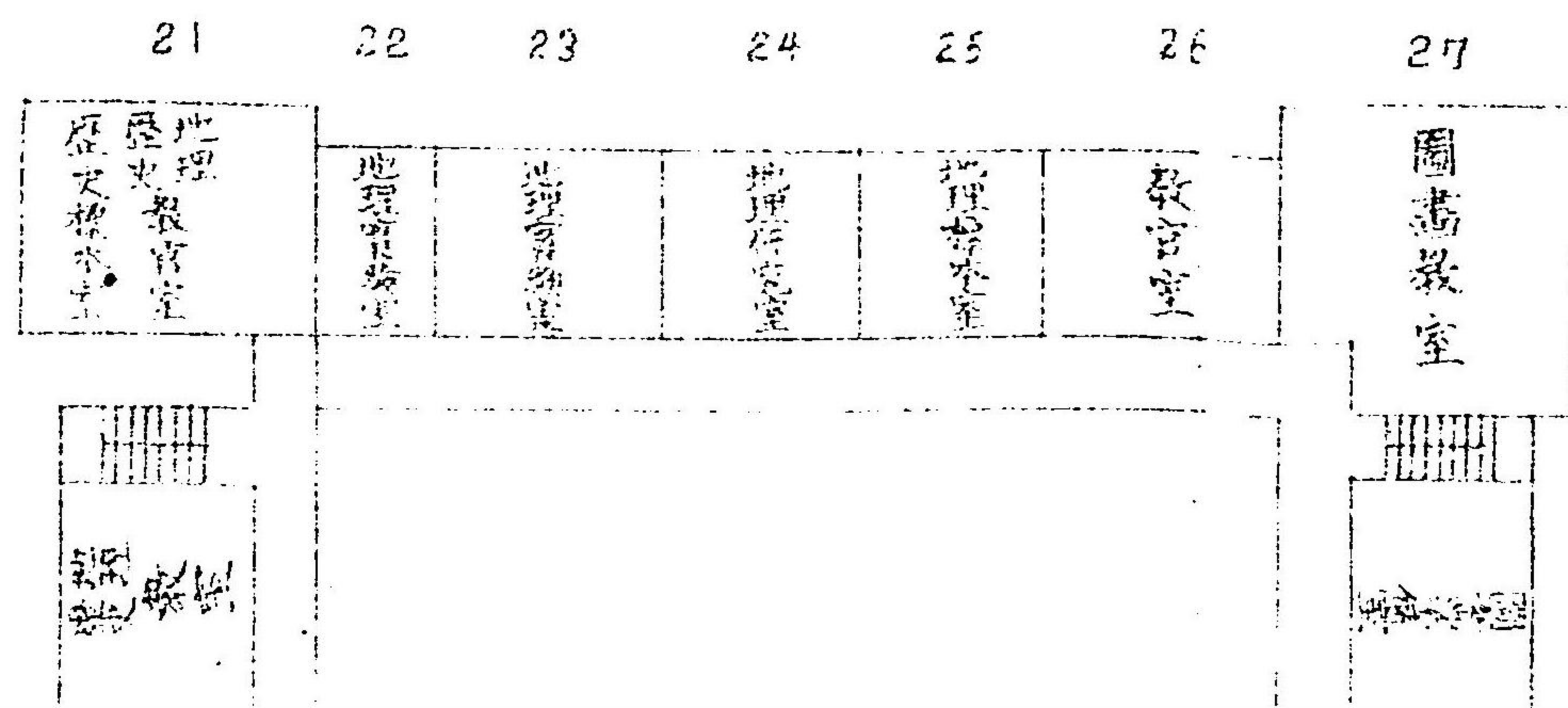
園物  
園物

木工教室

木工教室

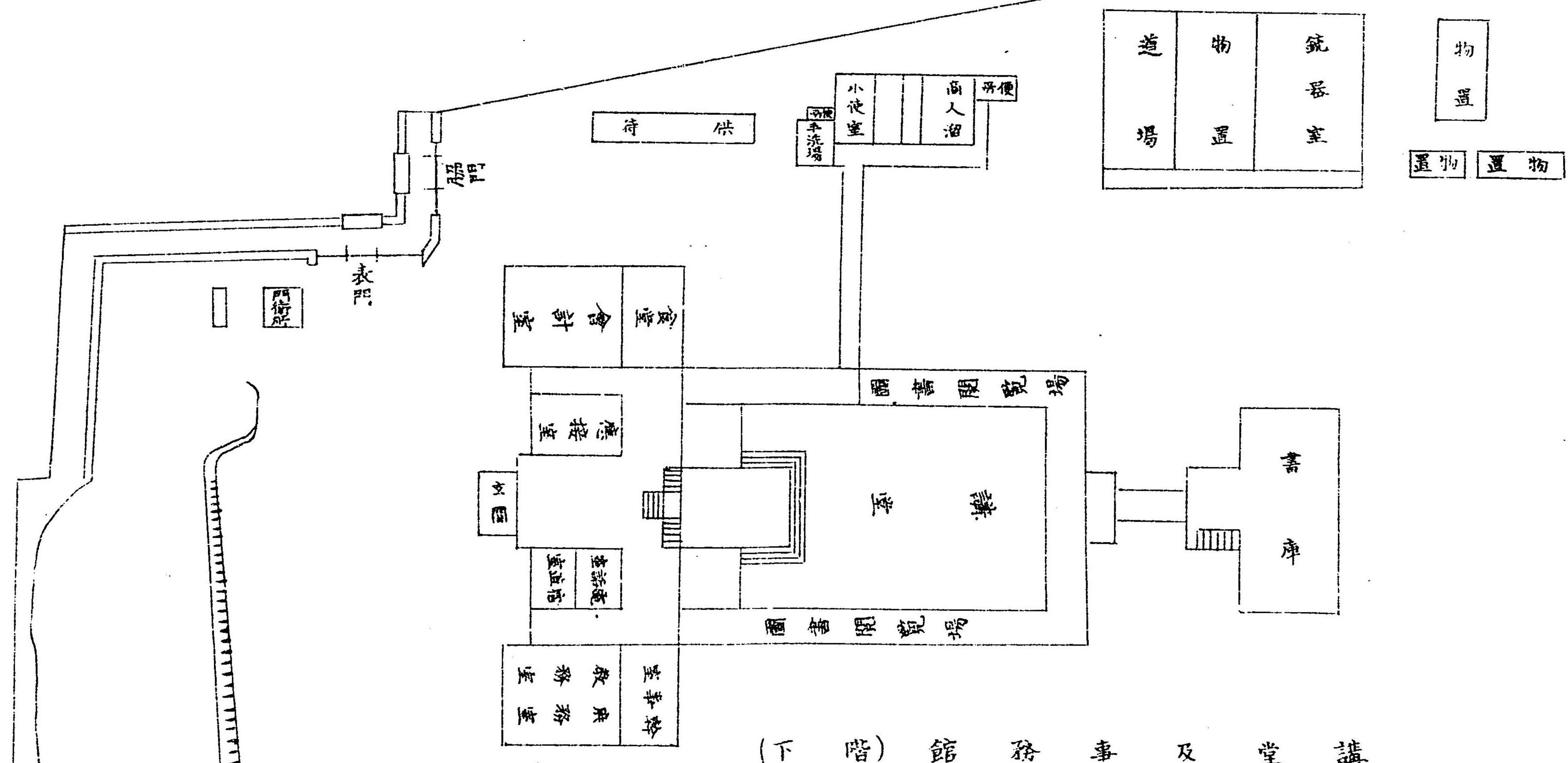


階  
上



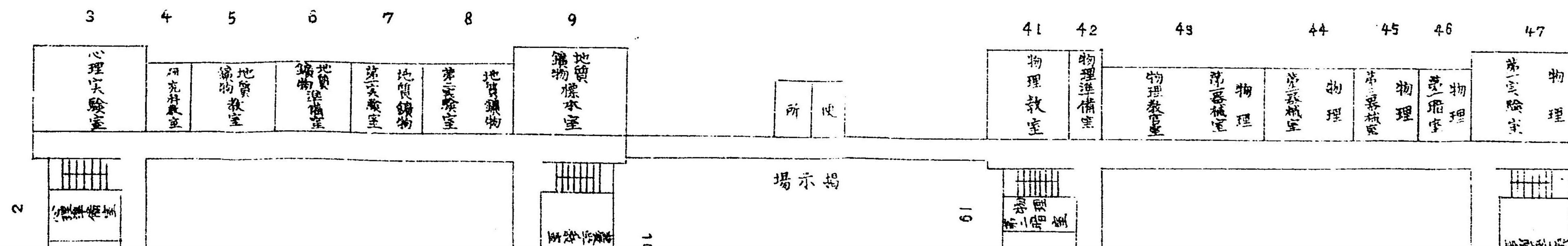


縮尺六百分之一



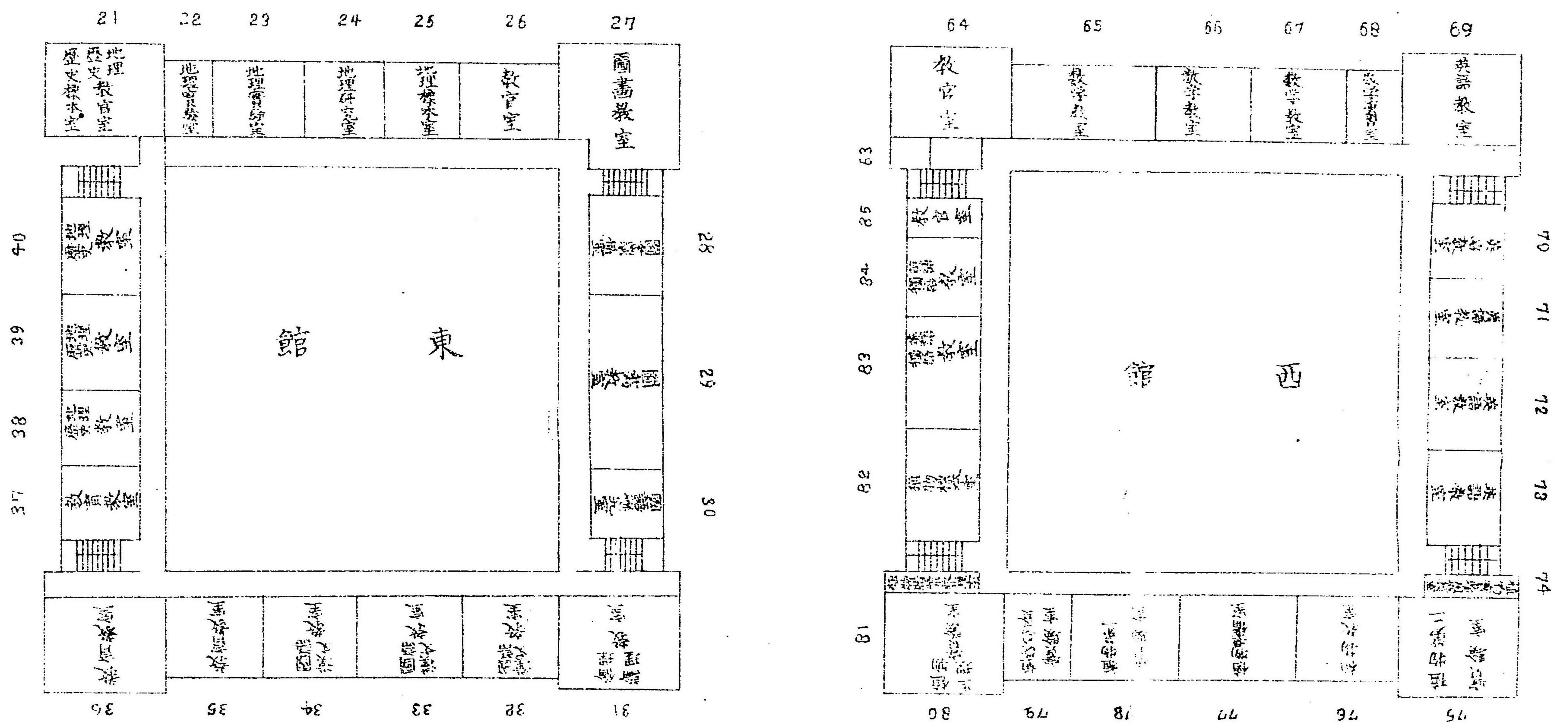
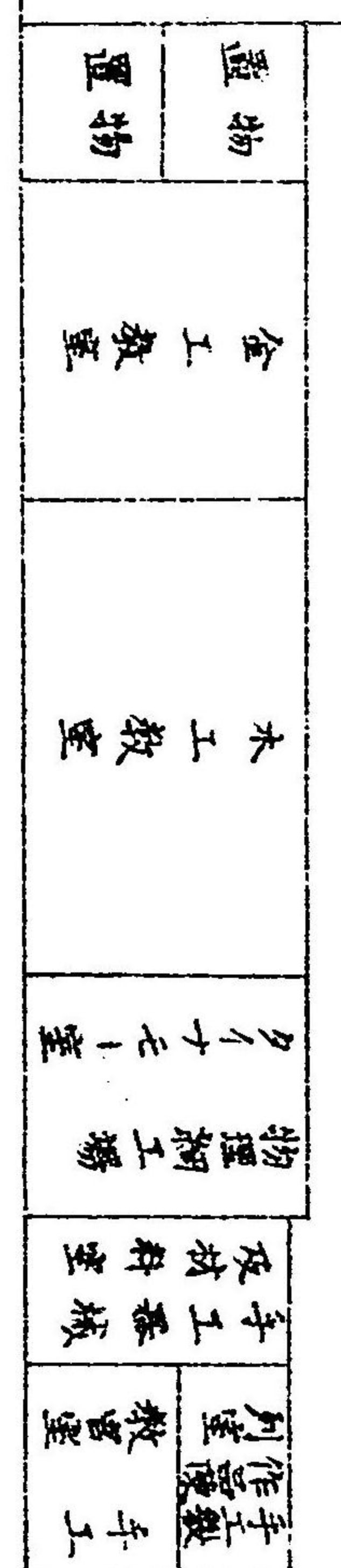
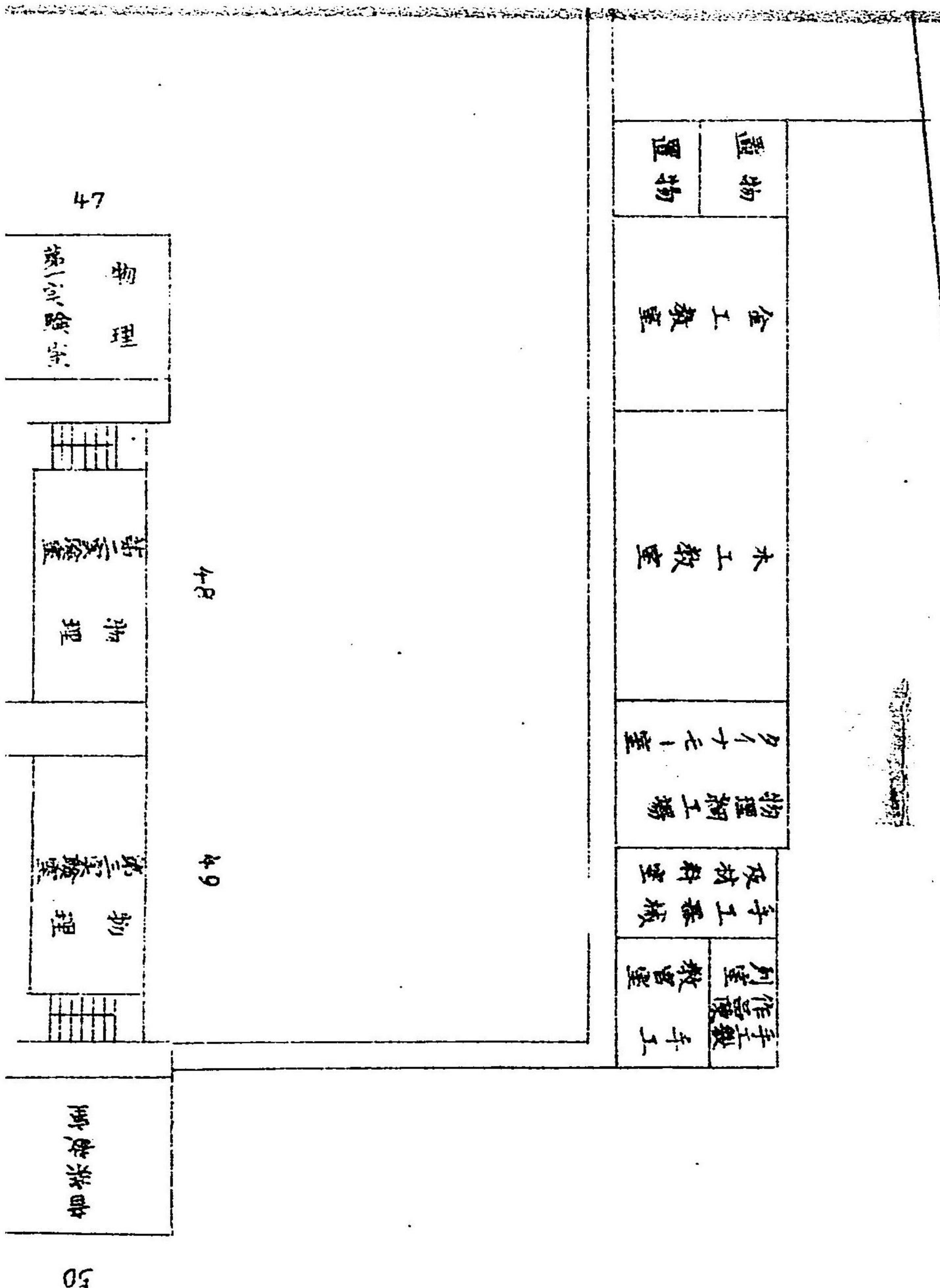
(下階) 館務事及堂講

運動場

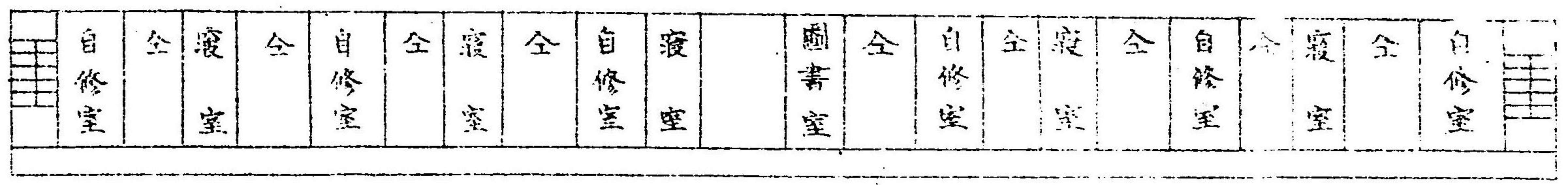


場示場

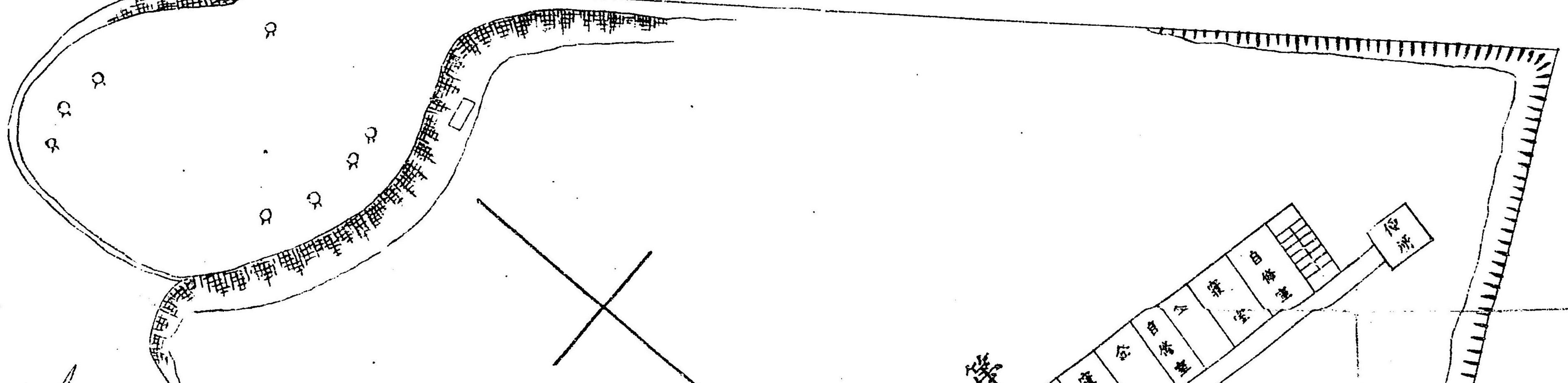
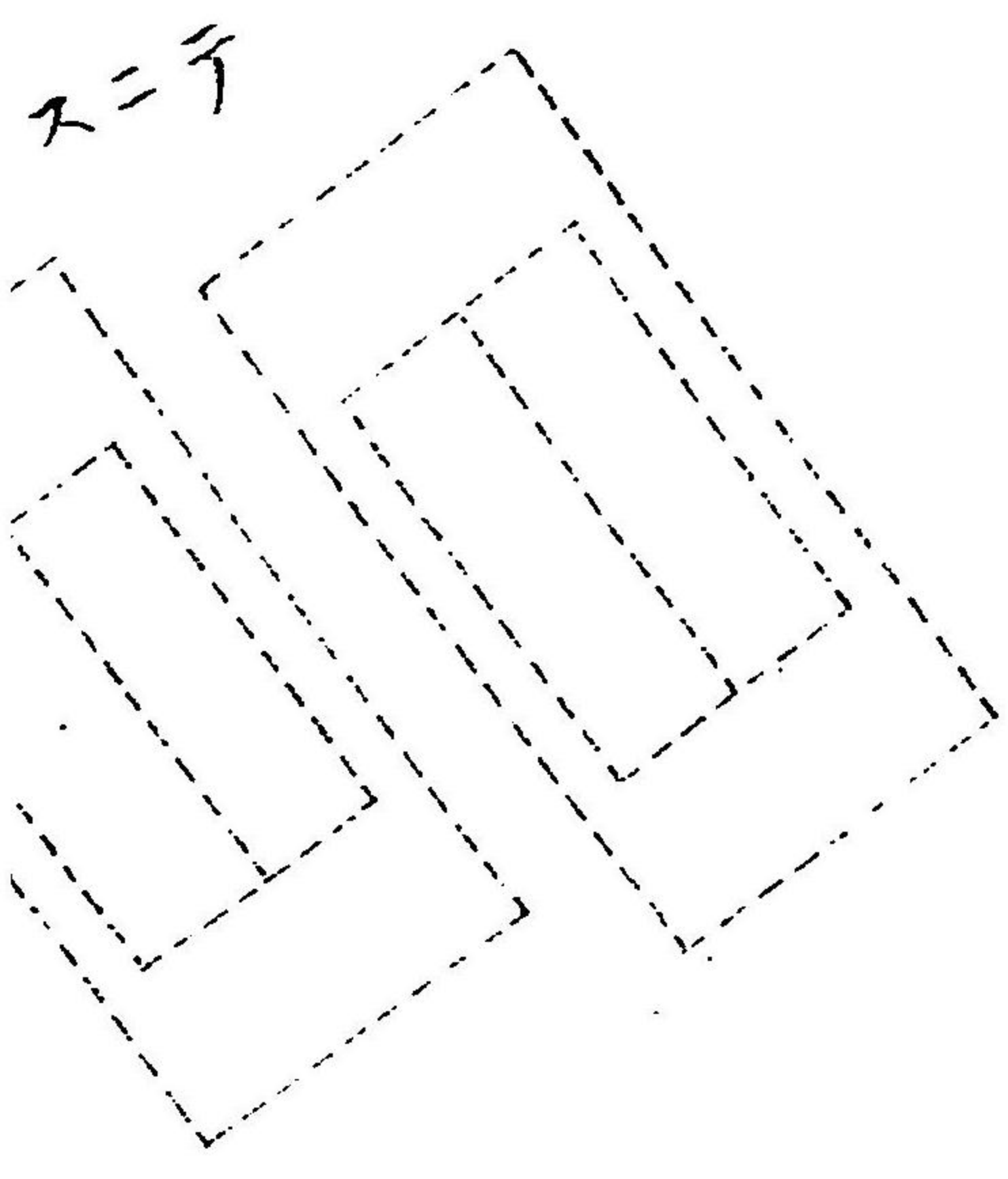
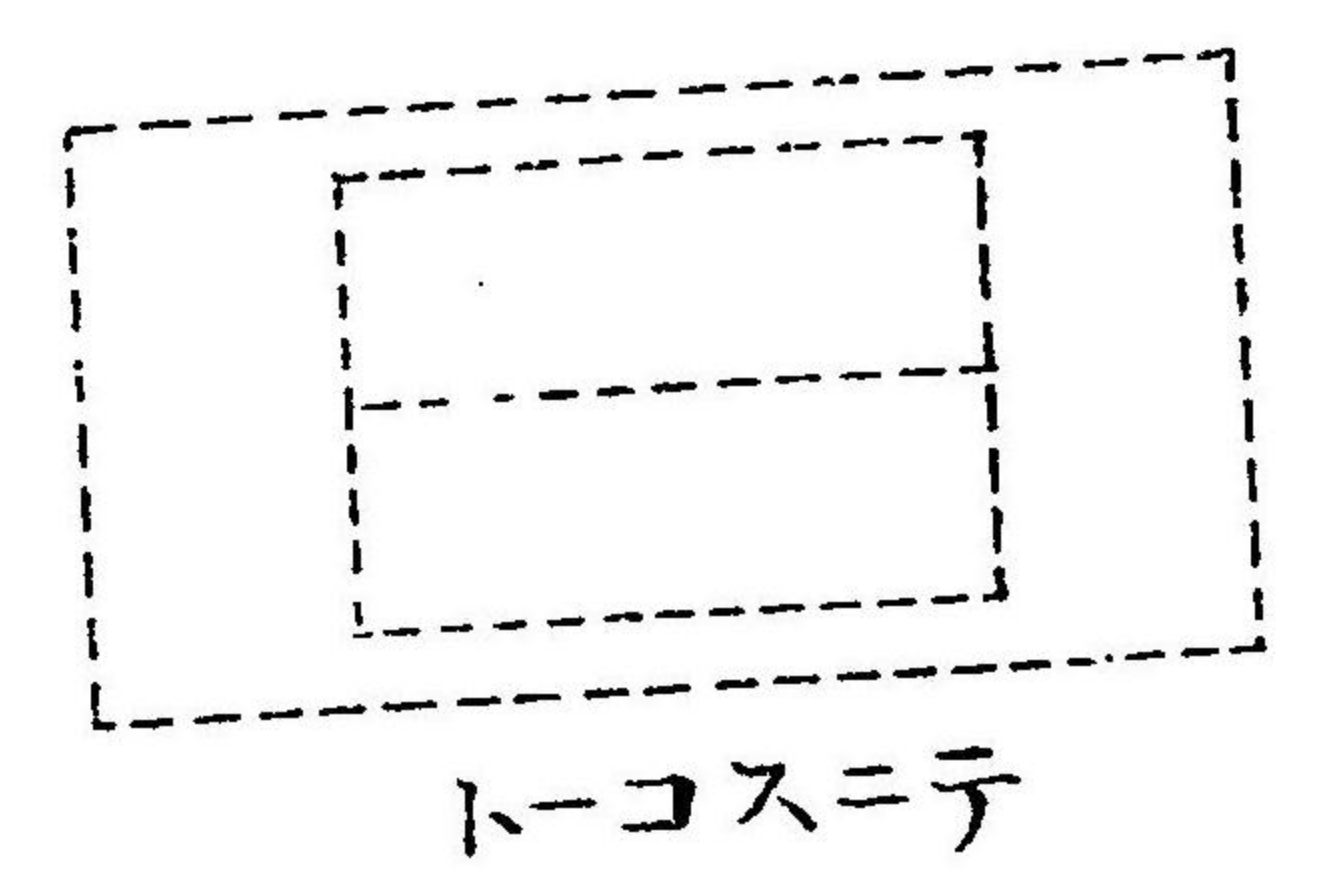
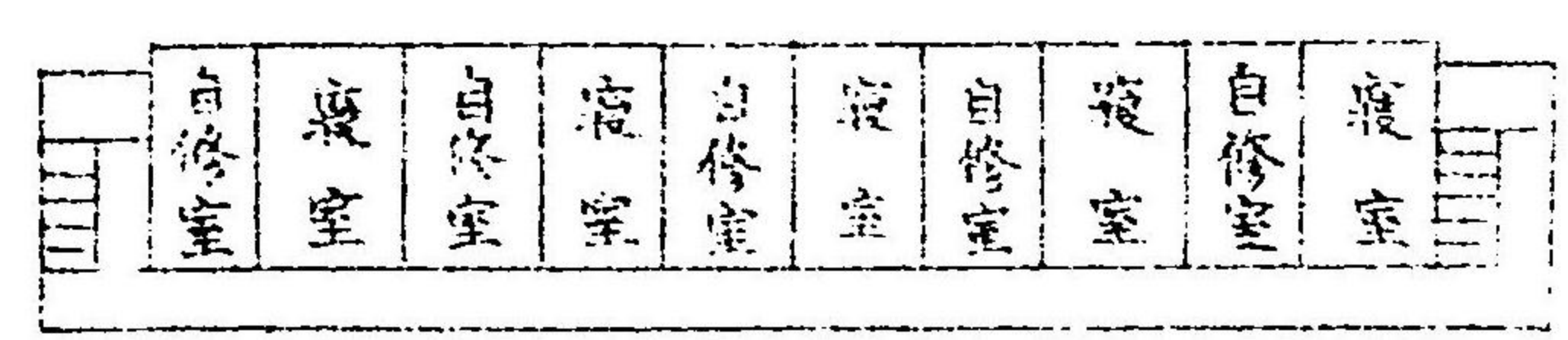




第一寄宿舎



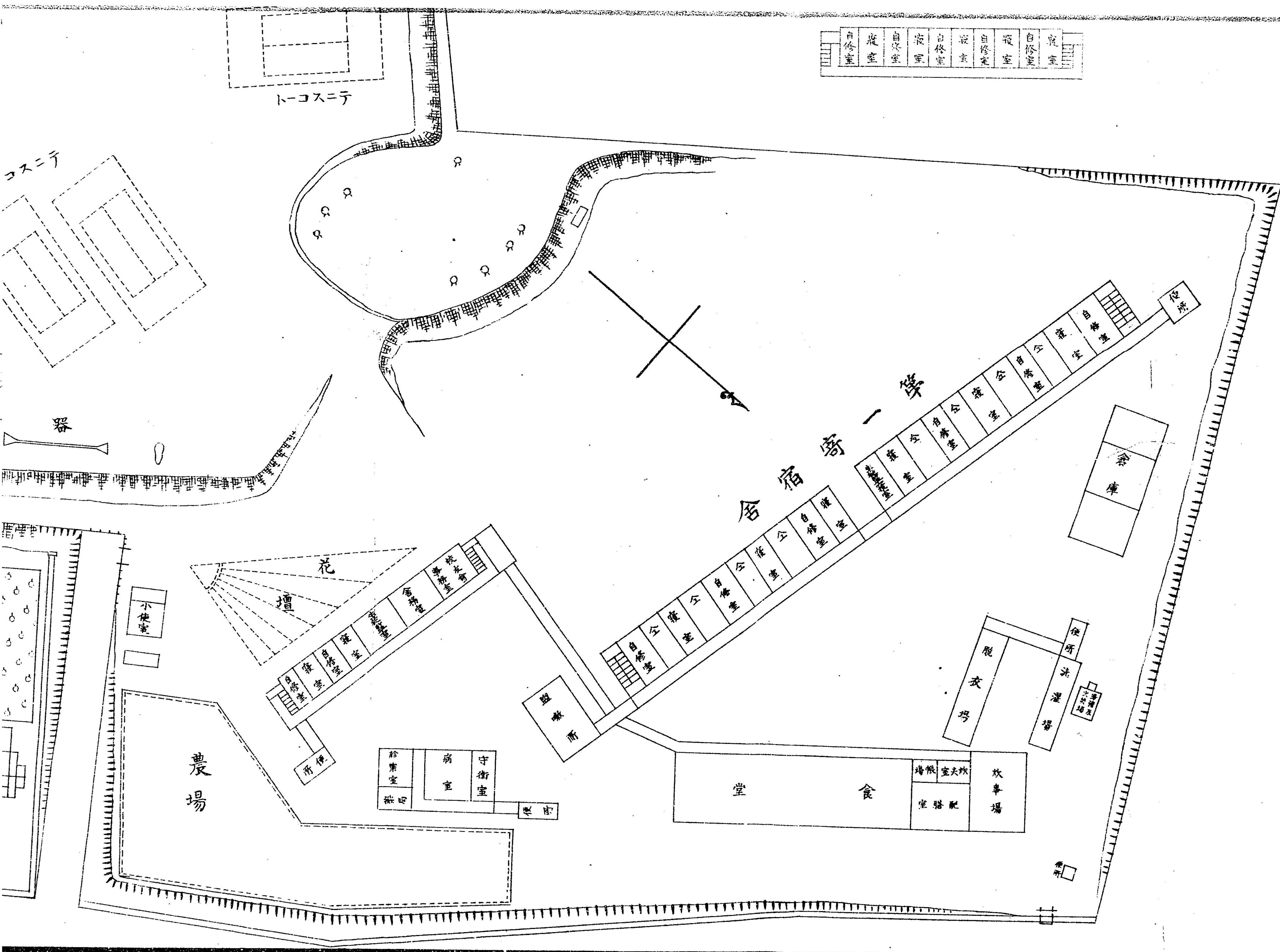
全上











自修室	寢室	自修室	寢室	自修室	寢室	自修室	寢室
-----	----	-----	----	-----	----	-----	----

本科二年地理歴史部生徒  
井上嘉三郎製圖



茗溪會事務所

迎賓橋

アコーステ

池

池

池

械

器

水

草

園

舞鶴亭

池

橋柳折

池

英

清香亭

有朋館

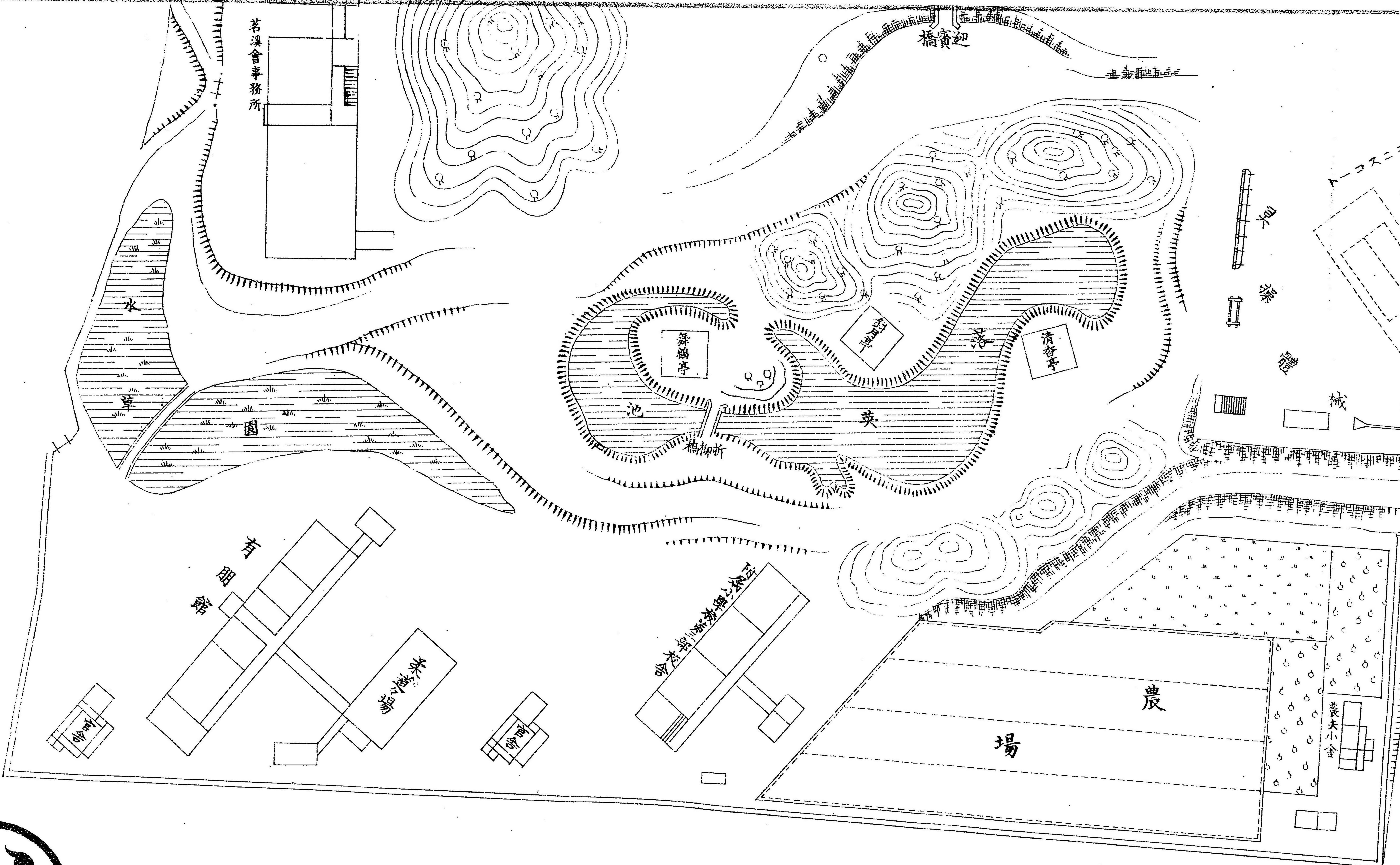
茶室

茗溪會事務所

農

場

農夫小舎





明治三十九年十一月廿六日印刷  
明治三十九年十一月三十日發行

# 東京高等師範學校

電話  
本館 二一四  
第一附屬 二一四  
第二附屬 二一四  
寄宿中學 二一四  
寄宿小學 二一四  
校舎 二一四  
校舎 二一四  
校舎 二一四  
下本 二一四  
下本 二一四  
下本 二一四  
一七二  
二七四  
一九一  
一九六  
一九六

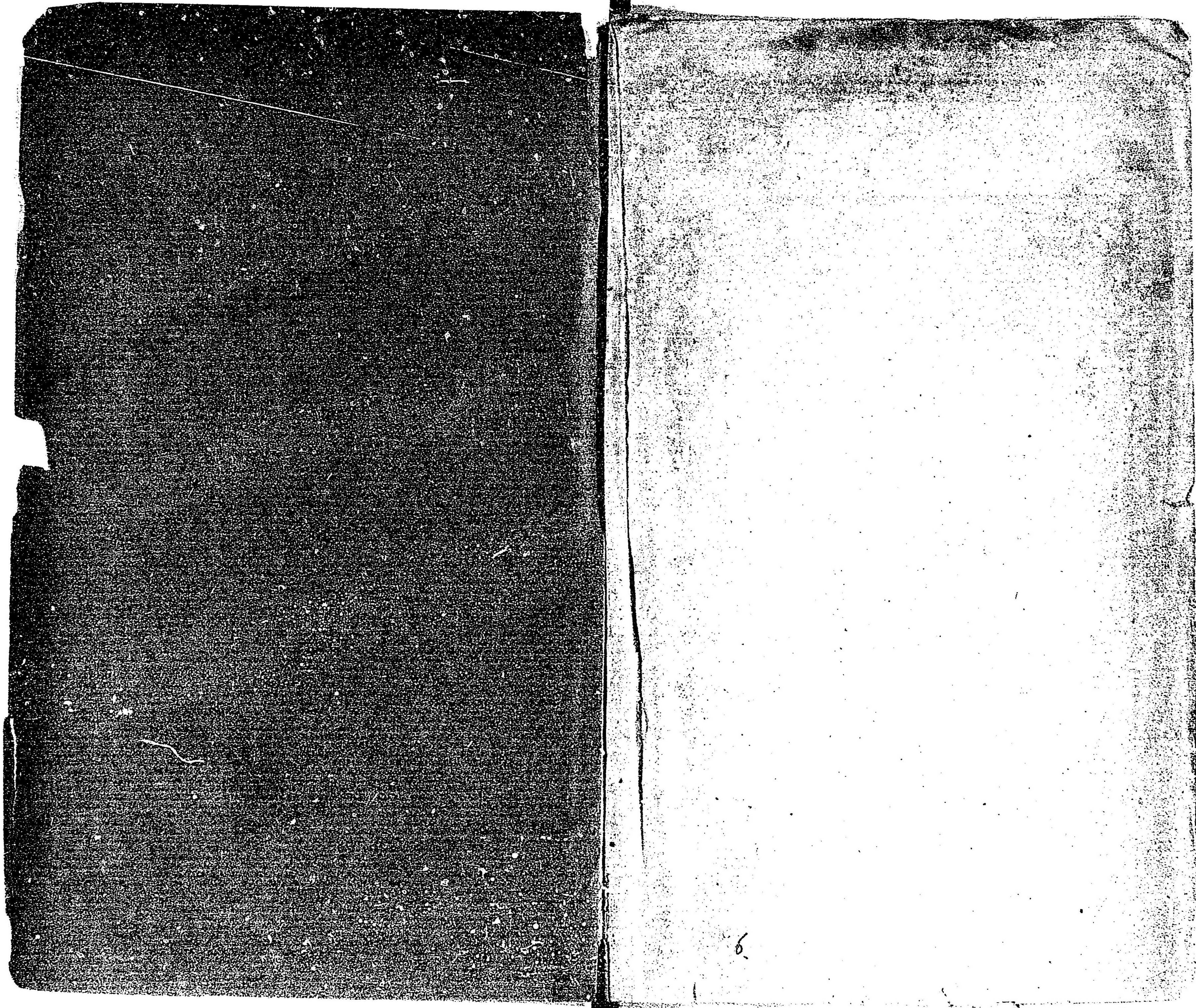
印刷者 青木弘  
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舎第一工場  
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

賣捌所 丸善株式會社  
東京市日本橋區通三丁目十四番地

全 丸善株式會社支社  
大阪市東區博勞町四丁目

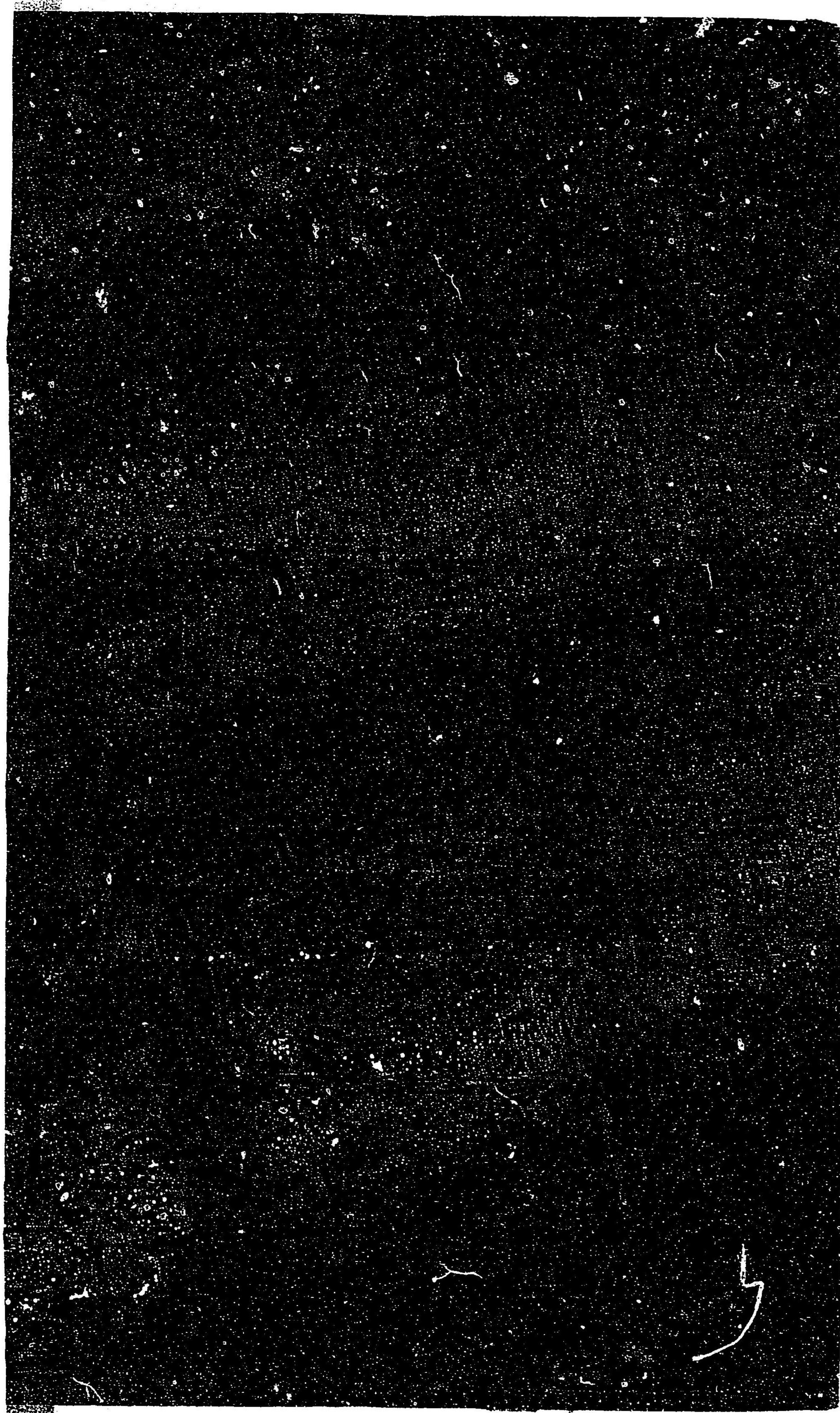






274  
別冊  
16







274  
別庫  
16



